無産階級戰闘雜誌

進め

進め一部拾錢
大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
大正十四年二月一日發行(毎月一回一日發行)
第三年第二號

二月號

卷頭言
無産階級虐殺法案
日本社會運動の現在及將來……佐野袈裟美
變則數篇……小牧近江
無産階級政治運動の目標……布施辰治
岡田文部大臣に與ふ……松下芳男
組合運動者に與ふ……友成三郎
獄かしなるにあり……鈴木厚
無産階級政治運動……梅津四郎
社會運動分裂の現勢から其統一へ……吉田一
當然三つに分るべき現社會の黨派……石川準十郎
虐げられし者の旅……赤迫繁夫
岐阜縣下における戰跡の一端……佐伯新助
青年運動から見た政治運動觀……佐藤光徹
政治運動の危險性と青年運動……大路龍一郎
全土戰報——支局訪問記 龍一郎
社會主義問答……高島素之
名流婦人の經濟觀を評す……權藤誠子
近世社會主義史……春田正
社會講談 或る夜の忠治 西下貞

社告

（一）記念號發行

我が「進め」誌は本三月號を以て正に創刊二週年に當る。創刊以來滿二週年、省みて恨事多しと雖も、又以ていさゝか我國無産階級社會主義運動の爲に貢獻せる所あるを自負するに足る。幾度か內部の陣營傷き退きたる者ありと雖も戰線は益々强大に維持されつゝある。恐らく〇〇の來るその日迄我等のこの陣營「進め」は死守されるであらう。此處に來る三月號を以て記念號となし、新なる力を以て征途の行を踏まんとするものである。

（二）研究會二回

「進め」社研究會は前號に豫告せし如く本社東京移轉後の第一回を去る一月十日開催したが、その相談の結果月二回開催することとなし、十日及び二十八日を以て之に當てることにした。眞面目な同志の參加を希望する。眞の日本社會主義運動はこれからである。

（三）二問答欄設置

質問を募集す

我が「進め」誌は來月號より每號、高畠素之氏擔當の下に「社會主義問答欄」布施辰治氏擔當の下に「無産階級法律問答欄」の二欄を設置し、讀者の自由な質問に解放することにした。二氏は夫々既に定評ある斯界の最高權威今二氏の快諾を得てこの二欄を設置するは、讀者と共に吾人の竊かに喜びとする所であらねばならぬ。高畠氏は社會主義の學理的方面及び社會主義の歷史に關する一切の質問を引き受け、布施氏は無産階級が種々の場合に如何に法律を利用すべきかに就ての一切の質問を引き受ける筈であるから、讀者たる同志諸君は大いに本欄を活用して欲しい。どんな質問でも宜し。但し質問の意味が明瞭に分る樣に願む。

（四）大阪宣傳部

我が無産階級解放運動は益々その戰線を擴大し、陣容を固め、社會進化の必然に向つて、迫りゆくものゝある事を信じます。

然し吾々は徒らに、歷史の必然性を信じ、他人のお膳立てに縋ることは出來ない。例へ吾々が運動上の組織分子の一人であるにしても爲すべきことが多々あることゝ思ひます。

吾々の運動は、下から上に、足下から固めて行かねばならぬ。最近の新聞紙上を飾る無産階級の政黨組織、勞働組合の新生及び全國的總聯合組織、その他、國際的の問題にしたところで、注目すべき重大な現象が多いのであります。

さて本社はさきに本部を東京に移しましたが、關西は實質上、運動の主體となるべきを慮り、同人數名居殘り、「進め」の姉妹雜誌「戰へ」を發行する事になつて居ります。

就いては、大阪市內外の讀者も少からぬことゝなれば、一緒に集つて戴いて、悠つくり話し合ひたいと思います。研究、座談、茶話會の意味で今後每月續けてゆきたいと思ひますから、操合せて御來會を願つておきます。

日時……每月第三十曜日（午後六時）

場所……進め社（坂神電車野田電停所より福道を北へ二丁程右側）

大阪市外鷺洲町海老江一〇七七　進め社宣傳部

日露修交を祝す

去る一月二十一日を以て我が日本とソビエット社會主義共和國との條約が遂に目出度く締結された。我が「進め」に於ては、既に一昨年大正十二年八月號に於て、無産階級の見地より大に「日露同盟」を提唱したことがある。それより一年有半、吾人の提唱と元より相關するなしと雖も、兎に角今遂に日露修交成る。滿腔の快禁ぜんとして禁じ得ないものである。露西亞は今や世界唯一の「社會主義國」である。而して日本無産階級の行くべき道も「日本社會主義國」あるのみ。此處に快を叫んで祝意を表する所以である。

三月號　二週年紀念號　豫告

三月一日發行の「進め」を二週年紀念號とす。

「進め」二年の戰跡を振りかへつて見る時に幾多の難塞倒壞の跡痛快に橫たはつてゐるを見る。

時代は移つて來た。そして新しき戰ひは、新しき城塞は吾等の眼前に橫たはつてゐる。

「進め」は難戰苦鬪の二年の戰ひの跡を振りかへりながら、今又新しき鬪爭場裡に滿二週年を迎へて突進せんとする。

その新しき開戰の蜂火を、二週年紀念號によつて擧げんとするものである。

軍事教育と云ひ、治案維持法案と云ひ皆此れ新しき、而も暴力的挑戰に他ならない。

此の挑戰に對する挑戰の宣戰布告である。

急告

進め社員と稱し又は舊社員と僞り福田の名刺を僞造して各地方で金錢を詐取する徒あり本社の名を言ふものは多く、此れ詐僞漢なる故に特に御注意を願ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見よ!!! 咄!!!

無産階級鏖殺法案

―恐嚇政治時代來る―

治安維持法案　要項

一、國體を變改し又は左の目的を以て結社を組織し又は其の情を知り之に加入したるものは十年以下の懲役又は禁錮に處す
　（一）議會制度の破壞
　（二）司法權及び行政權の否認
　（三）徴兵制度の破壞
　（四）納税制度の破壞

二、左の目的を以て結社を組織し又は其の事情を知りて之に加入したるものは七年以下の懲役又は禁錮に處す
　（一）不法手段に依る財産制の破壞

三、前二項の豫備行爲を爲したるものは五年以下の懲役又は禁錮に處す

四、第一、第二項の目的を以て多數集合し其の事項の實行を協議したるものは七年以下の懲役又は禁錮に處す

五、第一、第二の目的を以て其の事項の流布を爲したるものは五年以下の懲役又は禁錮に處す

六、第一、第二の目的を以て他人に違法の行爲を煽動したる者は十年以下の懲役又は禁錮に處す

七、第一、第二の目的を以て金品を授受又は其の申込若くは約束を爲したるものは五年以下の懲役又は禁錮に處す

八、何人と雖も本法施行區域外に於て爲したる罪に對しても本法を適用す

九、本法に記載する犯人にして未だ官に發見せられざる以前に自首し出たるものに對しては其の刑を輕減又は免除することあるべし

是れ始皇の愚を學ぶ者

今や、白晝の日本に、公然大規模の「無産階級鏖殺法案」が施かれようとして居る。嘗て一度施かれんとして施き得なかつた「過激法案」が、光榮ある「護憲内閣」に依つて「治安維持法案」なる名の下に、覆面新粧再び議會に上程されようとして居る。而して世上傳ふる所に依れば、「普選」よりもこの方が通過確實だとある。

日本無産階級は今や眞に考ふべき深刻な場面に置かれて居る。日本支配階級は今や左手に「普選」の美味を延べ、右手に「治安維持法案」なる毒刄を拔いて居る。「普選」受けんか、「治安」受く。「治法」受けんか無産階級解放運動の行路の難を増す。右せんか、左せんか、然もその自由は我等に存しない。

この「治安維持法案」は一見、「暴力行爲」に依る資本主義撤廢運動のみを禁止するもの丶如く見ゆる。それ然り、豈それ然らんやである。該法案の基礎條項は、上圖に見るが如く、第一條、第二條の二項があるが斯の如きは解釋の如何に依つて如何ともなるものである。例へば、第一條の以て「十年以下の懲役又は禁錮に處す」となす所の（一）の「議會制度の破壞」に就て見んか、現在の「貴族院廢止運動」乃至「貴族院改革運動」でさへも尚、解釋に依つては、我國議會制度の破壞を目的とするものになり得るではないか。又例へば、第二條の以て「七年以下の懲役又は禁錮に處す」となす所の（一）の「不法手段に依る財産制度の破壞」に就て見よ、そもそくその言ふ所の「不法手段」とは何を意味するか。一社會主義者の像を掲げる一片の畫や社會主義雜誌を以て「兇器」と見なす官憲諸君の國法觀念ではないか。何を以て「不法」と認定するか分つたものではない。民衆の常識と官憲階級の常識とは、甚だその距離を異にすることは、今迄の「事實」が示す所である。

されば該法案はその適用如何に依つては、十分無産階級運動をその成長途上に於て窒息又は窒息死せしめんとする苛法たり得るものである。蓋し、無産階級は現在の「財産制度を破壞」することなくしては決して解放され得ない。然も該法案はその解釋の如何に依つて、この無産階級運動に對して致命的な關係を有するのである。而してこの法案制定の本意、此處に在るに非ずと誰か保し得る? 日本官憲の今迄の行爲は、無産階級よりして十分この不信任を受くるに足る。誰か烏の雌雄を知らんや。無産階級の解放、社會主義社會の實現には、必ずしも「暴力」を必要とするものではない「暴力（不穩手段）」で行くか、「議會（平和手段）」で行くかは、一に支配階級の態度に依つて決定さるべきものである。されば科學的に嚴密な意味に於ては、無産階級の側にその決定權は存しない。無産階級をして「平和的手段」に出てしむるか、「不穩的手段」に出でしむるかは、支配階級が「平和的態度」を以て臨むか、「不穩的態度」を以て臨むかに依つて決定さる。然るに今、支配階級が斯の如き「十年以下の懲役又は禁錮」や「七年以下の懲役又は禁錮」なる「公的暴力」を以て臨むは、これ無産階級に對して「暴力」に依る挑戰をなすものに非ずして何ぞや。これ慘虐なる「恐嚇政治」の開始に非ずして何ぞや。

日本無産階級は何物を以て壓迫さる丶とも、その解放を欲すり限り、而して民族的にその能力を有する限り行くべき所に必ず行く。それは社會法則の必然である。日本國民が民族的に衰亡せざる限り必然の道である。それは何物を以てしても阻止することが出來ない。

これさへ承知ならば、支配階級諸君は當にこの法案行ふべしである。この法案に依つて何より先づ第一に得る所のものは、恐らくは「治安」に非ずして、諸君自身の「謀叛者」であらう。（石川）

日本の社會主義運動の 現在及將來

佐野袈裟美

一

日本に社會主義運動が起つてから既に二十五年の歳月を經ているのであるが、官憲の壓迫や政治上經濟上の事情がその運動を必然的に發展せしめるに至る素地をまだ十分につくつていなかつたことやまた運動そのものの方法も我國の社會事情に適合するように行はれていなかつたことなどのいろ〳〵な原因からして、大衆の中に根をおろすことが出來ないで、極く少數の思想的に目覺めた人達の間に限られているような狀態にあつたのである。しかし社會主義運動が大衆の中に入つて行かざる限り、全く無意味な無力なものであるとゆうことがだん〳〵氣付かれて來たところから、この二三年來方向轉換がとなえられるようになつたのに外ならない。それに一昨年の大震火災の際如何に社會主義が民衆の中に理解されていないかを徹底的に見せつけられたところから今迄の運動方法をかえなければならないことを痛感せしめられたのである。

それが其後いわゆる社會運動上の右傾となつてあらわれたのである。また民衆に社會主義を本當に知らしめることが先づ第一に必要であるとゆうところから、啓蒙運動、教育運動に力をそゝぐ目的をもつた日本フエビンアン協會などの設立された所以でもある。

二

しかし日本の社會主義運動が單に右傾しただけで民衆に近より民衆をその中へ引き込んで行くことが出來るであろうか。單に自由主義やデモクラシーと妥協し狎れ合ひさえすればそれで社會主義運動はだん〳〵力を得て行くことになるであろうか。私はそうは思わない。社會主義に伸びるべき必然的な條件のそなわつてゐる土壤の上におかれざる限り、決して十分に生い立つて行くものではない。民衆の社會的生活の物質的條件の變動につれてその時々の方策をとつて行くような社會主義運動のみが眞に力強いものとなつて行くであろう。

また一方いたづらに左傾して革命を叫ぶものも、民衆の支持を得るに至る所以でもないことは明かである。〇〇の機運は決して人工的につくり出し得るものではない。しかるに詩人的な革命家は、〇〇を魔法でつかうように呼び出すことが出來るものだと思つているらしい。現實の世界がどんな風に動いているかとゆうようなことには全然無頓着に、既に陳腐になつた革命の原理にしがみついて、すつかり動きのとれない窮地に自らを陷れしめている。

しかし私は日本に〇〇は來ないと豫言するものではない。來るかもしれない。大勢が其處に動いて行つた時にのみ可能である。たゞ現實の政治上及經濟上の進化は實に遲々たるものである。且つ又人間の心理も、因襲や傳統に囚われていてなか〳〵其處から拔け出ることが出來るものではない。如何に吾々がはがゆく思つてやきもきしても、現實の事實はどうすることも出來ない。その動いて行くところに從つて最大の可能性を發揮せしめる方向へと導くより外ないであろう。こうした民衆の動きにうまく投ずれば、日本の社會主義運動は非常なる進展を示すに違ひない。

社會の進化は遲々としている、然し時に飛躍することがないのではない。ただ、飛躍は實に千載に一遇の時期である。それには其處へ行くような必然の勢ひが社會に動いていなければならないのである。それと共にその時機をつかまえ得る明敏な透徹した頭腦をもつた指導者がなくてはならないであろう。たとえば、ロシアの社會主義革命に於けるレーニンの如きである。

三

日本の社會主義運動の將來は、イギリスのような漸進的な道を辿るであろうか。それともロシアのボルシエキキ革命のような無產階級獨裁の狀態を出現するような道を辿るであろうか。これは容易に斷言することが出來ないが、恐らく日本の政治上及び經濟上その外一般社會上の事情の進展につれて特殊な道を辿ることになるであろう。

吾々は徒らに外國を模倣することは止めなくてはならない。その國のいろ〳〵な事情がその國特殊な社會運動を伸張せしめたのであるから、日本の社會の物質的條件に適合した運動のみが、本當の生長を見るに至るに違いない。

四

普通選擧がまがりなりにも實施されるに至れば、日本の社會主義運動もそれにつれて變化せずには

變則數篇

小牧近江

反トロツキイ主義（一）

やつと納まりかけたトロツキイのロシア共產黨の官僚化攻擊も、トロツキイの近著「一九一七年」の發表によつて、又々レーニズムの修正問題といふ同じ論爭を展開させやうとしてゐるやうだ。カーメネフとスタリーヌはむきになつて反トロツキー主義に沒頭してゐる。トロツキイに共產黨第三回大會の決議を無視し、彼の論法は明かに、「十一月革命」の眞相をあやまらせる黨内攪亂の材料だといふのだ。それかあらぬか、プラウダ紙所載の「トロツキイ十一月革命史讀む勿れ」は到るところに轉載の大賑はさだ。スターリヌの「レーニン主義」の一日も早き完譯と、同時に、トロツキイのこの問題の「一九一七年」の全譯の發表を早く讀みたいものだ。更に「一九〇五年」と一緒に飜譯してくれる人があつたら尙うれしい。

プチ、ブルジョア傾向とは？

スターリヌによれば、共產黨の鐵則を無視し、直接間接にブルジョア階級に利用せられるやうな黨派をつくる傾向をいふそうで、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いないであらう。勿論普選に多くの期待をおくことの出來ないのは明かである、しかしこうした政治上の事情の迫るにつれ、無産階級解放運動の大勢が政治行動是認の方へ傾くことは既にあらゆる方面からその歩武が進められつゝあるのを見ても明かなことである。これは確によい結果をもたらすであらう。そして社會主義運動にも新展開の機會を與へることになるに違ひない。

たゞこの際漫然と自由主義即ちデモクラシーの階段を無産階級の政治運動が經なくてはならないと說くものがあるとすれば、それは誤りだ。日本の資本主義は恐らく今後自由主義を完成する時期を通ることはないであらう。だから日本の今後の社會主義運動は封建的な遺物をすつかり取り除く爲めに自由主義の支持を必要とするであらうが、またある點では自由主義を飛び越えて進まなくてはならないのである。この點は社會の事情が可なり復雜してゐるから、自由主義やデモクラシーの觀念の幽靈にとりつかれて杓子定規な道を辿ろうとすれば、身動きのとれないことになるに違いない。

五

日本の資本主義はあらゆる點に於て既に行き詰りかけてゐる。外國貿易も昨年などは入超六億四千百萬圓とゆうような有樣だ。燐寸製帽用眞田、茶などの輸出が近年激減し、綿製品は昨年の輸出は多少好況であつたが、これは恐らく日本の爲替相場が暴落した爲めの一時的な現象で、全體としては近年の傾向である輸出の漸減を挽回し得るものではなからう。我が國輸出高の四割を占めている生糸も今日以上に發展し得る見込みは殆んどない。だん〴〵支那の安い生糸や米國の人造絹糸及び生糸自給の進展などによつて壓倒されるであらう。資本主義の發展に必要な鐵、石炭の甚だ少い日本は、資本主義の國際競爭に於て米國や英國と肩を並べて行くことは到底出來ない。彼等は國として資本家國であり、米國の如きは今後資本主義的に更に發展し得る餘裕を十分に示している。それに日本の人口は年々七十萬づゝ增加し、今日でも三百萬石からの米の國內產出に於ける不足であるこの行き詰れる日本の經濟は、個人主義的經濟から共同的經濟へ急激に進展せざるを得ない必要に迫られている。されば日本の社會主義運動も今後特殊な進展を示すであらう。

無産階級政治運動の目標

布施辰治

一

無産階級の政治運動には、從來幾多是非の議論があつた、けれども、今や無産階級の政治運動は、解放運動必至の戰術であり、其の黨組織は最も有力なる一つの陣容である。從つて、無産階級の政治運動には、私共の研究考察を要する問題が可なりに多い。

が、今こゝでは無産階級政治運動の目標と云ふ問題に就て、所見の一端を述べて見たい。

便宜上先づ結論から云ふが、無産階級運動の目標は、「無産階級の是なりと信じた主義主張の最も勇敢なる無産階級自身の實行」に置かなければ爲らぬと信ずる。

階級鬪爭の立場より觀たる無産階級の運動は、其の總てを通して、有産階級の運動とは相容れないものがある。

けれども、此の相容れないと云ふ事は、必ずしも、有産階級の運動方法を常に毛嫌ひして反對すると云ふ事では無い。飽迄、進步的にして、且つ能率的なる無産階級の運動、即ち一日も早く總ての人の爲に、住み心地の能い新社會を建設する運動は、有らゆる方面の有らゆる方法に就て、最も愼重なる取長捨短の考慮を費さなければ爲らない。

殊に、其の運動が、愈々實際化するに及んで、尙更實踐の考慮に俟つ調査と研究とが必要である。

斯うした觀點に立つて、無産階級政治運動の目標に、一步の考察を進むる亦、恐らくは何人と云へども、無産階級の政治運動には、あまりに議論の多くして、既に無産階級の是なりと信ずる主張主義の確立せられたるものあるに拘はらず、其の最も勇敢なる實行に缺くる所多きを遺憾とするであらう。而して、有産階級の是なりとする資本主義的政治施設の勇敢なる不言實行に及ばざるものあるを慨くであらう。

二

茲に、無産階級政治運動の目標に就て、一步の考察を進むるものは、議論よりも實行といふ點に、無産階級政治運動、夫れ自身の發生と使命とに顧みる處がなければならぬ。

何故なら、總ての人の爲めに、住み心地の快い新社會の建設、即ち之れを政治的標語に換言すれば國利民福の主義主張は、必ずしも無産階級政治運動の專賣では無い

トロツキイによれば、黨內の民主主義を唱へることもプチ、ブルジョア思想であるかも知れないが黨內を宣傳化することもプチ、ブルジョア思想でなくて何だらうといふのだ。勝ては官軍、敗ければプチ、ブル？

光榮を有し候

帝國日本と社會主義的共和聯盟國ロシアとの承認は既定の事實で今や期日の問題らしい。「東日」によれば、利權の方はうまくも行かぬが、それでも外交上の成功だそうだ。なる程、帝國日本の對案なるものを見ると、例へば尼港事件に關して「遺憾の意を表示するの光榮を有し候」を念入りに深甚とか深刻とかの遺憾の意になつてゐる。そこらが字句上の成功の一つだらう。何しろ五年もすつたりもんだりかかつたんだから。それにしても、「東日」は一月十三日の朝刊にロシア側の協定案並に日本側の對案の全文を揭げてゐたが、肝心の「東朝」にはどうしたことか特派員の短い特電だけ。それかあらぬか大正八年以來北京に在勤せる特派員大西齊氏が今回「東京朝日」詰となり、その後任として太田宇之助氏が十二日北京に到着した許りとある。まさかそんなわけでもなからうが、遲かりけり由良之助？

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夫れは、總ての政治の看板である限り無き暴虐を以て民衆を苦しめたる處の專制政治と云へども、總ての國民の智識を集めたよりも、ヨリ以上た神君の聰明を以て、國民の爲めに施設せらるゝ政治は、國民の爲に最も幸福な政治だと云ふ看板を出して居たのであつた。

然も、そうした專制政治の看板と、實績との相違は、善意の不明か不能か、惡意の不爲か不行かである。夫れは恰も、强盜でさへも云ふ事を肯かなければ、爲めにならぬと云つて、被害者から物を出させるのと、國利民福を看板にして、限り無き暴虐に民衆を苦しましむる專制を事とするのと同じである。要するに、看板丈けの國利民福は何にも爲らない。更に、有產階級の政治運動も、又、國民の爲めの政治を國民と共にすると云ふ看板を掲げて居る。正に國民の幸福は、國民と共に計りてこれを私しないと云ふ處に、國利民福の看板を專制政治よりも引き下げて、一部少數者の試食、即ち政治的參與を許して居る、そして所謂試食連の有產階級政治家は、有產階級の政治運動が、最も無產階級の口に合ひそうな、社會政策的施設を按排して最も非道い空腹を感じて居るものから前に、生活難の保險を講じてヤルと云ふ効能を吹聴して居る。

然も、左様した有產階級政治運動の看板と實績との相違は、實行の誠意なき看板の僞りと、効能吹聴の間に無產階級の眼を掠める手品師的の詐欺を暴露するのみである。

三

こゝに、有產階級の政治運動は無產階級の爲めにと稱する社會政策的政治施設を論議して實行せず左様した議論の間に無產階級の目を掠めて、有產階級の爲めにする資本主義的政治施設は、之を論議せずして不言實行して居るのである。夫れは恰も、詐欺師が相手の爲、に有利な事業を只で與ふる如うな條件で提供するとか、高價な物件を廉價に賣却するとか云ふて相手を有頂天に喜ばして居る間に飽なき私服の不正利得を詐欺して居る詐欺師と些かも選ふ所が無い左様した、神君封建の專制乃至有產階級の特權政治に反抗して、新しく生起した無產階級政治運動の目標は、元より總ての人の幸福の爲めの政治と云ふ聲明にあらずして、其の實行で無ければ爲らない。

無產階級政治運動の獲得は、シヨウウヰンドに飾られたる國利民福の看板で無くて、其の實物で無けれは爲らぬ。斷じて、總ての人の爲に幸福なる新社會構造の仕様書許りであつては爲らない。現實に雨を凌ぎ風を防いで、最も住み心地の好い新社會を現實に建設する力仕事の土工作業に、汗と血とを絞る實行であらねは爲らない。夫れは云ふ迄もなく、無產階級の爲めと稱する有產階級政治運動の社會政策的施設の有言不實行に、無限の憤激と無量の不平とを有して、眞の無產階級の爲めの政治的施設は、眞の無產階級自身の實行に俟たねは爲らないと叫んで起つた、無產階級政治運動の使命だからである。

四

今其の一二例を擧ぐれは、當面の普選問題に就て、眞に民衆の爲めに普選の實現を期するものは、普選の實施案より即行で無ければ爲らぬ筈である。然るに、加藤首相は、此點に關する前臨時議會の質問に答へて『普選の斷行は提唱したが普選の即行など云ふた覺へは無い』と空嘯いて居る。又、過般の豫算内示會では、明かに『普選は實施しても議會は解散しない、從つて何時から普選を實施するかは明答し難い』と云ふて居る、加藤首相等の希望通り、彼等が長く政權を握るものとして、普選が實現しても、議會を解散しなけれは、突發の重大事件でも起らぬ限り、現在の議員任期は、大正十七年迄存續する筈である。從つて加藤首相等の現に豫想して居る普選の實施期は、理論上大正十七年と云ふ事に爲るのであるが、大正十七年から普選を實施しようと云ふ現内閣は、果して、何の護憲なりやである、普選斷行の看板に民衆を欺いた現内閣は、護憲内閣に非ずして、一種の胡魔化し内閣である。

普選を叫んで民心を釣つた、現在の有產階級政黨は、憲政、政友革新の三派共、何れも詐欺の政黨である。斯く云へはとて、私は素より普選に反對する政友本黨が良いと云ふので無い、普選に反對する政友本黨は、詐欺よりも一段劣つた泥棒政黨である。何故なら、詐欺政黨は民衆の要求に相槌を打ちながら、私腹を肥やすが、泥棒政黨は、民衆の前に隱れて私腹を肥やすものだからである。が、いづれにしても、無產階級に取つては、油斷の爲らぬ政治的犯罪者である、之を絶滅しなければ爲らない點に於ては勿論、同じ穴のムヂナである。

眞に民衆の爲に計る普選の實施は、到底彼等有產階級に、其の實施期の決定權を握らせて貰ひたいのでは、何時果して眞の實施を見るか判つたものでは無い、更に、

米國國務卿ヒューズが失脚し、外交委員長ボーラの勢力が有利になつて、愈々米國もロシアを承認すると。こん度こそ——迷つて後から來た雁が先きになりやせぬか。昨年以來の各國のロシア承認は左の順序、

イギリス	二月一日
イタリア	二月七日
ノールヰー	二月十三日
オーストリア	二月二十日
ギリシヤ	三月八日
スヰーデン	三月十五日
支那	五月三十一日
デンマルク	六月十八日
メキシコ	八月
ホンガリヤ	九月
フランス	十月

對露非干渉同志會の運動メーデーのそれ、長春會議中の與論喚起、無產階級、種蒔きの合同宣言、進め社のロシア承認特別號など今では皆古い昔噺だ。

お門ちがひ

日露交渉といへは、後藤子爵は漁業協約のことでしこたまもうけたといはれてゐるが、それで金づかひが近頃めつきり荒いと三太夫に叱られたとか某紙の無駄咄に載つたと思つた直ぐその翌日の夕刊に、元後藤新平氏の書生をしてゐた男が『食ふに困るから何とかして下さい。』と、どうお門ちがひしてか秩父宮さまの御所に哀願に現はれたとある。この者、むろん、精神病者ときめられて早速巣鴨行、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愈々實施せらるゝ時には、どんな骨拔きの詐欺手段が施されて居るか——罠が盛られて居るかも判つたものでは無い。

既に殷鑑遠からず、工場法に見よであり、小作法に見よであり、勞働組合法に見よである。私共は決して現在の有產階級の爲より授け與へらるゝ不徹底不完全の工場法に滿足して居るものでは無い。更に、只今起草中だと聞く小作法や、勞働組合法にも滿足するものでは無い、けれども、無いよりは優さる無產階級解放運動の合法戰術に利用する便宜がある、手近かの例を云へば、不徹底不完全な借地借家法を實施せられて居る土地の借地借家人は、借地借家法の實施せられて居らない土地の借地借家人よりも、幾分合法戰術の利用的便宜を得て居る。

左樣した關係上、幾分でも無產階級に利用の便宜を掴まるゝ工場法は、約十年を經て世に出た、小作法は、約七年もの調査に揺り籃されて居る。勞働組合法は、胚胎に流產に、幾度か此の世に出でんとして、出づる事が出來ない、調査中起案中と云ふ、どうせ產れる兒の畸形兒な丈け、陣痛の長い難產の苦しみを續けて居る始末である。要するに、眞の無產階級の爲めにする政治的施設は、有產階級が無產階級と共にでは駄目である獨り無產階級丈で無ければ駄目である。

五

次ぎに、現內閣の三大要綱の一枚看板にして、現內閣唯一の人氣役者濱口藏相が、心血を注いだと云ふ財政の整理も、又た其の聲明と眞意との相違する點に於て詐欺であり、其の効能書きと其の實際の相違する點に於て、一般民衆は大なる被害者と爲つて居る。

財政整理の聲明は、從來の放慢財政策によりて危くせられたる、國家財政の基礎を立て直すと云ふ事であつた、けれども、國家が國民の國家であつて、資本家の國家でない限り、眞に從來の放慢財政政策に依りて危くせられたる、國家財政の基礎を立て直す財政整理は、資本家の飽くなき私腹の肥滿を恣にした不勞所得に對する財產稅でも、思ひ切つて制定するか放心、慢心の事業濫施に倒れそうな資本家の企業は、資本主義經濟の倒壞に任せて、所謂特殊金融機關や、特殊事業と稱する政商企業家を救濟するよりも、そうした資本主義的產業組織の犧牲者として、勞働市場に晒されて居る飢餓の死刑囚失業者問題を解決すべき筈であつたと信ずる。

然るに、現內閣三大政綱の一たる財政整理に、資本主義の國家的保護を徹底せんとする國家財政の基礎を立て直した夫れであり、虛業家資本家等の事業失敗を救濟せんとする夫れであつた。私は明かに其の聲明と眞意との相違を斷言する。

斯くして、財政整理斷行の結果は、何處に一人と云へども救はれたる無產階級の失業者があるか？樞密院の諸老さへも氣附く、四萬の馘首者を廻つてゐる二十萬の失職者と云ふよりは、失食者を作つた被害は蓋し尠なからずであらう

更に、夫れよりも非道い事は、小額懸賞附き小債券の發行である、小債券の發行に依つて、其の懷を睨まれたものは、無產階級老壯者の死金であり、少青年の大行は細瑾を顧みず的な賭博資金の流通橫領である。死金を投じた小債券の懸賞に外れて悶死した無產階級の老若があり、一擲千金の資本に流用した穴埋が附かずに法廷へ引かれたものもある、而して、集め得た公債應募金は、何人が何の爲めに使用するかを考へて見たら、現內閣の一枚看板、財政整理の實際は聞くだに恐ろしい無產階級の被害に驚くであらう。

六

擧げ來れば、殆んど際限も無いものは、有產階級政治運動の看板に詐りの多い事である。故に無產階級の爲めにする、無產階級政治運動の目標は、眞に無產階級の爲めに、是なりと信じたる主義主張の最も勇敢なる、無產階級自身の實行であらねば爲らない。

偖て、然らば、無產階級の爲めに是なりと信じた主義主張を、最も勇敢に、最も能率的に實行を期する方法如何——夫れは訓練せられたる街頭の大衆運動として、統一せられたる政黨の議會運動として、組織せられたる組合運動として、大いに研究努力を要するものがあると思ふが、本論は其處に及はない、こゝには、專ら無產階級政治運動の目標に限りて所見の一端を述ふるに止むるのであるが最後に一言すべきものは、無產階級政治運動の目標は、前來繰返して云ふが如く、無產階級の爲めに是なりと信じた主義主張を、最も勇敢に、最も能率的に實行する一直線に置かるゝのではあるが、其の一直線に置かるゝ目標は、必ずしも、一直線の最終端のみに置かるゝのでは無い、空間的に云へば十里毎に、時間的に云へば一年每に置かるべきものである。換言すれば、百里の道は一里塚、一年の計は元旦にと云ふ事に爲るのである。處が、此の目標の置き方に就て、最も六ケしいものは手近の

お隣で今は食へると。

どちらが勝つか

晴れの丸帶三十本、其他加賀百萬石の殿樣前田侯と近く結婚する菊子孃の兄さんの酒井忠正伯『何うも世間では妹の結婚仕度が大袈裟に傳へられてゐるが、實際は非常に急ぐので殆んど仕度らしい仕度も出來ないで困つてゐる位だと」いつてゐる。近くは宮さまの御婚儀、さては兩家晴の御仕度

宮さん

姬さん

どちらが澤山着ませうか

外には寒さと飢に泣く三萬の自由勞働者。

偉大な精神家

一月十二日の『東京每日新聞』は、飯野ラスプーチンを、『其の暗黑面に至つては、某女學校校長某女史との醜關係極まりなき交際から某男爵令孃外十數名の婦女を云々と書なくつてゐる。晴れて翌日の『報知新聞』の夕刊によれば、『日本の女流教育家として第一位を以て任じ澄宮、竹田宮、山階宮東久邇宮など、かしこき邊りに出入してその御教養を承はる實踐女學校長下田歌子女史が怪行者と密接な關係にある事は隱れない事實である、この女史は怪物飯野を何と見てゐるか『飯野さんとは彼卑縣の同鄉人として、またあの人を

目標である、ナゼなら、最後の目標の置き方の間違は、其の間違ひの大きい丈け、誰れにも氣付くが手近かの目標の置き方の間違ひは間違つても其の間違ひが小さい丈けに容易に氣が付かない、然も、一歩の誤りは千里の差を生ずるのである。

七

差點は無産階級政治運動の目標を置くに、最も愼重なる注意を望む處であるが、左樣した手近な目標の置き方の間違ひは、無産階級政治運動最後の目標を、先づハツキリと大きく置かないで、手近な所から置いて置かうとするものゝ間に起る間違ひである。故に私は無産階級政治運動最後の目標は、眞に無産階級の爲めにする政治は無産階級自身の實行すべきものであると云ふ、大目標を先づ高く大きく立つべきものであると信ずる

そうでないと、無産階級の政治運動は眞に無産階級の爲にする政治的施設を、無産階級自身の實行に置く、當然の結果なる政權の奪取獲得に、所謂勳功者閥を生ずる恐れがある。

明治維新の政權奪取がそうであつた、政治革命總ての失敗は皆そうでであつた。

故に私は、此點に最も深甚なる注意を拂ふて、無産階級と共に生きるが、無産階級の爲めに死する犧牲精神の高潮を無産階級政治運動の先驅者に獻する。

私は頃者有産階級運動の有言不實行的政綱と不言實行的政綱との對照から見た無産階級政治運動に就て考へさせらるゝものが多いので特に所見の一端を述べたのである

岡田文部大臣に問ふ

―軍事豫備教育に就いて―

松　下　芳　男

岡田文相足下！

今回實施されんとしてゐる學生の軍事豫備教育案は、貴方の周圍に居る官僚軍閥乃至は其取卷連を除く外は、天下を擧げて反對してゐるのでありまして、貴方亦茲にお氣の付かれない事はあるまいと存じます。不肖も平和主義者の末席を汚す木ツ葉武者の一人としまして、口に筆に此案が如何に時代錯誤の戰爭煽動業であり、又學生にとつては有害無益の教育破壞案であるかといふことを述べて來たのであります。故に今本誌を借りて改めて此根本的批評を試みやうとは存じません。

併し貴方は僞職廿六日、憲政、革新兩派の幹部を招待されて、此軍事教育問題を辯明されましたが―そしてそれは此問題當初よりの御意見とは餘り變つてゐません―私共は貴方が餘り輿論を無視、といふよりもテンデ新聞や雜誌に於ける我々の聲を意志を御聞きにならないやうな態度を驚き、又呆れるものであります。私は當日の御講演を新聞で讀み、そしてそれに依つて少しく御尋ねしたいと思ふのであります。

岡田文相足下！

貴方は先づ「兵式訓練改善、これは新しい問題ではなく、明治廿年以來行はれて來たのである」といつて、貴方が初めてやるではなく、森文部大臣が起したので、それを只繼承するのであるといふ意味で責任を回避されてをります。如何にも學校の兵式教練は四十年の昔からやつてをる事でせう。又森有禮氏の力說したものかも知れません。併し四昔の前の力說を今頃何故急に持ち出して其徹底を期さねばならぬのでありますか。何故今急に學校の兵式教練はかり大改善を加へねばならぬのでありますか。「時勢の變化」とは誰も申します。四十年を距てた昔と今とに果して同じ力說が同じ必要を見出す時勢の變化がなかつたのでせうか。貴方の眼には四十年後の今日の國際事情國內事情が、四十年前のそれと同樣に映るのでありますか。

岡田文相足下！

併し貴方はあながち時勢の進むを知らぬでもない、直ぐ其次に、「時勢の進むにつれ、其訓練が緩み、」といはれてをります。如何にも時勢の進むにつれて。あんな下らない學校め兵式教練は緩んで參りました。學生の殆んど全部はそれを馬鹿にしてをりま す。若しもそんな事ないといはるれは。それは子供の兵隊ゴツコの意味で、發火演習などを喜ぶのでだ。戰爭を對象としての演習に對する敬意ではありません。即ち緩むといふ事の反面は、學生が自覺して盲目的機械的動作に慊らなくなつたのであります。

而して貴方は其爲に「現今の學生は惰弱に流れ、服從、規律、義勇奉公等の念も薄らいで來た」といはれますか、それも貴方を支配する道德からはそうは見えませうか、決して貴方のいはれるやうな惰弱になつたり、又は服從規律義勇奉公の念が薄くなつてはゐません。老人は何時も「今の若い者はどうもいかん」と口癖にいひますそして其老人も矢張り若い時には其時の老人からそういはれた筈で

の夫人末子さん（夫人と稱するものありとせは、それはけんである）べきは戶籍面で明かである）は華族女學校當時の敎へ子の關係で同家とは親しく往來して居ますがそれ以上の關係について斷じて辯解するも無用です、もち論飯野といふ人は立派な精神家と信じて居ます、實際あの人は常人の及ばぬ偉大さを持つてゐるのです」と、日本第一流の女子教育家はこの破倫無恥な怪物を立派な精神家と信じてゐるのである、この女史に倫理の教へを受ける妙齡の女學生たちは將來どうなる事であらう」と。

豈批評かましき贅言を要せんやだ。警視廳刑事課では飯野事件ならどんなことを書き立ててもいいそうだ。晴れての言論の自由だ。書くなら今。

火　事　ど　ろ

全國町村長會か敎育費增額實現運動で必死の活躍をしてゐる間は軍事教育でしつかり味をしめた陸軍では一月十三日の臨時師團合議で、青年團に軍事豫備教育を實施する手段に就き諸問案を出してゐる。即ち、

「當局では今回の學校軍事教育に關聯して成るべく早く青年團にも軍事教育を施したい意嚮であるが青年團は地方に依つて大いに實情を異にするから之に軍事教育を施

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。此事は一言にしていへば道徳の變化です。今の學生は果して惰弱になつたか。今日益々盛んになり行くスポーツの現狀は如何です昔の學生の企圖出來ぬやうな勇敢な事をドシ〳〵やつてゐます。又今日の學生が自發的に研究團體を作つて、其團體秩序に服從したり運動競技などの試合、實に敬服すべき其規律服從は、年と向上すると存します。更に善と信じ、正と思ひ、それを敢行するを奉公と解する事には、飽くまでも進む例へは此軍事教育案反對の如きなどは正に義勇奉公の現はれと信じますが、如何なものでムいませうか。

岡田文相足下！

而してその念なしと假定しても貴方が「之れが矯正には修身その他の學科もあるが、兵式教練が最も有力と思ふ」といふに至つては文部大臣たる貴方の常識を疑はずにはをられません。私共はよしんば其念なしとしても、その矯正こそ教育の任務であり、文部大臣の責任なりと信じてゐますのに、其有力なる方法を陸軍に借りねばならぬとは、餘りに謙遜乃至は自身又は軍閥の走狗を餘りに露骨に明言したものではありませんか。正直も美徳ですが、こんな事はマア〳〵言はぬが花といふものではありますまいか。

岡田文相足下！

次に貴方は「而して退職將校で現役將校をこれに充てたい」といはれてをりますが、それは尤もでムいます。軍人は戰ひに臨み敵に當るを職とするを以て、軍人精神とは要するに軍國主義的精神であります。白紙の如き學生の頭の中へ、殺伐なる軍國主義的精神を注入する爲には、生活難でヘト〳〵になつてゐる恩給將校では不充分の事は勿論であります。貴方の目には私共と同樣に「歐洲大戰は一時に國際平和論が盛んであつたが現今は寧ろ國家主義に傾いて、各國競つて國防の充實を圖り、學校等に於いて軍事教育が益々盛んになりつゝある」（教育擁護同盟の諸君に答へた言葉）事か映ります併し私共の目には尙其事實の背後に列強の資本主義が、其行詰り打開策として、血眼になつてもがき民衆の階級的鬪爭心の鋒先きを、無理に國際的鬪爭の方向へ捻曲げんとする努力が映ります。私共は其結果が無產階級はいはずもあれ全世界の人類の爲に悲しい運命に導かるべきを憂ひ、如何にしてそれを阻止せんかといふ焦燥を感じます。而も貴方はそうではない、此傾向を煽るものとしか見えない態度をとられます。是れ果して貴方の自稱する「平和論者」（教育擁護同盟の諸君への言葉）の任務でせうか。

岡田文相足下！

更に其次に「然るに今回陸軍が師團を減少し、將校に餘裕が出來たから、陸軍側と交渉して現役將校を得るに至つた」といはれますが、若し此言葉通りに信ずるならは、陸軍側としては、實に願つたり適つたりの方策であつたでせう我陸軍は夙に現役將校を如何にして平時餘分に保存すべきやを苦心してゐたので、各陸軍の諸學校官衙には出來るだけ現役將校を隱してをいたものです。それが今や大ピラに要求せられたからたまりません。背に腹は換へられぬ爲に四師團を減少して、の新式化を企てたが、其四師團分の將校を何とか生かしたいといふ希望にピツタリ適合したわけです。貴方は陸軍將校の大恩人たる名譽を擔つたわけであります。

其次に貴方は「これにより學生の精神を緊張せしむる外、軍事豫備教育にもなり、在營年限短縮、師團減少にも資すると思ふ。而してこの訓練は更に一般青少年に及ぼし、在營年限の短縮を圖る考へである」といはれてをりますが、之は大問題です。私は此點に大に意見を有するものでありまして、二三の演說で之れを殊に強く述べた所でありますが、今はわざと之れを申しません。只要點をいふなら、三つの問題になります。第一は今日の戰鬪狀態を鑑みるならは、學校に於て一二の將校を以てする兵式教練などは、何等の軍事豫備教育になるものではない。之れを以て在營年限を短縮出來るといふのは、陸軍が既に在營年限を無條件で短縮してもいゝ事情に達したのを、軍人精神を學生に鼓吹する陰謀上、白々しく交換と言ひ出したものと見る外はないといふ點であります。第二は師團減少といふ交換條件も、小の蟲を殺して大の蟲を生かすといふ手段で、少數の軍隊を減らす代りに、多數の學生の精神を掴まんとするものであるといふ點であります。第三は有產階級の子弟たる學生のみに特典を加重し、無產階級には矢張り二年間の血稅を徵するものだといふ點であります。私は此點を改めて論じたい存じます。

岡田文相足下！

貴方は「反對論もすんが、これは戰爭を否認する平和論者の說ではなからうらうか」といはれますが其通りでムいます。私共は戰爭を否認する平和論者でありますが世に戰爭を肯定する平和論者があれは、それは不思議な事と存じま

すにしても全國一律と爲し得ないものがあつて各地方の實情に應ずる手段を執らねばならぬ」と。油斷も間隙もない世の中である。

その手は食はぬ

「朝日新聞」の計畫にかゝる渡歐飛行はその成功不成功の如何の問題でなくて、我々の双手を擧げて贊成するところのものである。由來速力と思想は密接な關係を有して居るからである。しかし油斷も間隙も無い世の中である。陸軍の飛行士あたりを以て、ロシアの上空を飛はせるやうな軍事教育であつては、自ら擧げた手もさがる。その手は桑名の渡歐飛行。

鬼檢事の政治觀

ケープタウン國際十一日發に據れは、南阿全國の多數のアマチユア・ラディオ・ファンは世界無線電話試驗週間に米國からの試驗通信を明瞭に聽取し、犬の吠聲すらもよく聞えた程であつたといふことだ先づ自らを知るべきである。衆議院各派並に貴族院議員の野合になる我か國上下大會はかのアマチエア・ラディオ・ファンの試驗通信になるやうであつてはその不明瞭なること犬の吠聲以下である。疑獄シーメンス事件、大浦兼武議員買收事件八幡製鐵所の疑獄、山憲事件等で鬼檢事、前大審院檢事秋山高三郎氏の政治觀を紹介する。右は「週刊朝日」一月十一日からの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。けれども茲に改めていはねばなりません。私共は戰爭を否定し國際平和の實現を期待するものではありますが、今日國防を否定し直に軍備撤廢を要求せんとするものではありません、現在の國際戰爭の原因を、根本的に除去せんとする努力を爲しつゝ、而して其成功の日までは、國防の爲に、然り國防の爲に最少の軍備を必要とします、其最少の軍備は内外の狀勢を條件とします、此立場に立つて私共は論ずるのでありまして、貴方の言外の意味の樣なものではないのでありまして、此點を御諒解を願ひます。

岡田文相足下！

最後に貴方は「倫敦軍縮は資本家の無産階級に對する壓迫の具であるといふものもあるがそれはユートピアの言に過ぎない」といはれます。本當にそれはユートピヤの言でありたいものです。ですから私は軍備の用は只國防の爲と強く申したのです。けれども國防の爲といふ程度を超した軍備は、動もすればユートピヤの言ではなくてそれが事實となつて現はれます。

私は嘗つてリープクネヒトの「軍國主義」を讀んだ時、内容が獨逸の例を以てするに拘はらず、餘り我國に似てゐるに驚いた事がありますが、貴方の御言葉に對して私は此「軍國主義論」を差上ぐると共に、最近の我勞働運動と軍隊との關係の事實を御考へ下さる事を御すゝめ致します。

岡田文相足下！

之れで貴方の御講演の殆んど全部に亙つて御尋ねした次第でありますが、勿論御答へして頂かうとは存じません。（そんな事分り切つてゐますが）何故そういふかと申しますと。貴方の御答ひは既に教育擁護同盟の諸君へ答ひられた一言の中に、全部含んでゐると思ふからであります。曰く「世界をよく平和ならしむるは。各國軍備を充實して置かねばならぬ。軍備の平均が破るれば、平和が破れる」。此一世紀前の思想がそれであります。此思想であれば、成る程此講演のやうな御言葉の出て來るのも尤もなりと感ずるのであります。

では、妄言多謝。

組合運動者に與ふ

——組合運動とデモクラシー——

友成三郎

一

人類共同社會の最も進歩せる形式はデモクラシーのそれである、吾人は最も完全に發達したデモクラシーの共同社會を想像する以外に如何なる理想社會の實現をも信じ得ないものである。

國家が人類の共同生活に欠くを得ないものである限り、國家組織に於けるデモクラシーの最高度の發達は、國家それ自身の目的であると云はねばならぬ。然してこれを實現して行く方法には種々あるであらう。予は勿論唯物史觀に同意するものである。社會の生産力が社會組織を決定するの定義はこれを信ずるものである。しかしてその上部建築たる精神的方面、即ち社會生活の意識的方面はデモクラシーの完成を以て終結するものなりと確く信ずるものである、故にデモクラシーを主張してこれを完成せしめる事は即ち理想社會の實現であると考へるものである。

デモクラシーなる用語は普通政治的意味にのみ用ひられる。しかし予が前段に述べたデモクラシーなる觀念に經濟的デモクラシーをも包括する最も廣義のものである。しかし予は今こゝにかゝる廣義のデモクラシーを評論せんとするものではない。單にデモクラシーの一適用としてのみの勞働組合運動を論ぜんとして以上の序言を附したに過ぎない。

二

蠟山政道君は政治研究新年號に於てデモクラシー論を試みて居る。論旨は我國に於けるデモクラシー諸制度の確立に對し勞働階級の任務が重大である事を切言したものであるが、これ予の悉く同感した事であつた。蠟山君は我國政治組織に於けるデモクラシーの實現が無産階級の向上に缺くべからざる必要である事を論じて居るが、予は別方面に於て・即ち勞働階級の陣營の内部に於て、デモクラシーが如何に必要であるかを論じて見たいのである。その動機は無産階級運動の陣營の小黨分裂が今日の如く甚だしきはなく、それが運動を甚だしく劣勢無力ならしめてゐる主要なる原因である事を信じその根本原因は運動内部に於けるデモクラシーの精神が全然缺如してゐる事に存すると思ふからである。殊にそれは勞働大衆を目標とする勞働組合運動に於て最も甚だしいと信ずるが故に、敢て現在の勞働組合を批評して、デモクラシーの精神に則る運動を高調したいと思つたからである。

三

勞働組合運動の陣營に於ける小黨分立は今更これを論ずる迄もな

轉載そのまゝ。

「多ゝ」の人は私に對して、今後政治に與さはるかと訊ねられるが、私は今日日本に眞の政治はないと思ふ。現在の政治に與さはるといふ興味は、私の心には浮ばないと答へる。名は代議政體といふも、金があれば誰でも代議士になれる。金がなければ如何なる賢才も議政壇上に立ち得ない。かやうな狀態に於てそこに代議政體があるとは私には思へない。ひとり立法府のみならず日本の現狀は各方面とも行詰まつて居ると思ふ。「金があれば誰れも代議士になれる」、「そこに代議政體があるとは思へない」「眞の政治がない、ひとり立法機關のみならず」云々かういふ危險思想の持ち主を裁く鬼檢事は更にゐないものだらうか知ら。

資本家の本音

牧野生

姉娘「お嫁に行くのがこわいわ」
長男「僕は唯一つ試驗だ」
妹娘「蛇がこわいのよ」
次男「巡査だ」
末弟「一つ目小僧」
末娘「お父ちや何がこわいの」
身をふるはせつゝ
親父「稅務署と勞働組合……」

この言葉こそ、近代資本家の本音ではなからうか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

い。最近に於ける勞働總同盟關東同盟會の分裂の直接原因は勿論運動方針の相違にある事は明白である。しかし單なる運動方針乃至主義主張の相違が是非とも分裂を必要としたかは大に疑問である。新に成立した關東地方評議會に屬する四組合を除名する事を主張した關東同盟的幹部は、前記四組合を以て總同盟の運動を續けて行く上に絶對に相容れないものとして除名を提議したとは云ひ難い節がある。勿論關東同盟會幹部とば氷炭相容れぬ立場に陥つた事は認められるが、飽く迄總同盟から排除せねばならないと信じたものであれば、それが中央委員會に於て容れられなかつた場合、關東同盟會自身が總同盟から脱退するのが當然の論理的歸結である。然るに一總同盟の下に二つの地方同盟が甘んじて併立してゐる狀態は、ほとんどこれを理解するに苦しむ珍現象と云はねばならない。勿論この事は關東評議會に就ても云ひ得る、暴力に訴へて迄も敵視する幹部を有する關東同盟會に飽迄所屬せんとした心理はこれまた不可解と云はねばならぬ。故に喧嘩は兩成敗である。甚だ失禮な言分だが、兩者とも總同盟の看板に執着する事甚だしいものがあるのではないか、第三者が、かゝる批評を下すのも寧ろ當然であると云はねばならぬ狀態であると思ふ。

四

予は問題の起つた關東同盟大會をも傍聽しなかつたし、其後の經過にも何等知るところのないものであるが、遠く離れて傍觀する時、以上の如き感想を禁じ得ぬ。而して分裂の根本原因は即ち兩者に於けるデモクラシーの精神の缺乏にあると信じて疑はないものである。端的に云へば、關東同盟の幹部はあまりに專制的であつた。關東評議會所屬組合もあまりに我意を張り過ぎた。兩者ともに大に鬪爭的であつたのは結構な事かも知らぬ。しかし微々たる組合運動の一陣營の內部に於て、互に競爭を弄してかくの如き激烈なる鬪爭を行ふ必要があつたか否かは大いに問題である。外部に對する鬪爭が最も必要な今日に於て、かゝる內輪喧嘩が行はれねばならぬ理由は吾人の解するに苦しむところである。

かゝる現象は何も總同盟に限つた事ではない。日本の勞働運動界を通觀して、殊に東京のそれを見る時、その弊の甚だしきに驚かざるを得ない。極端に云へば東京の勞働組合運動は團結運動と云ふよりも個人々々の運動と云つた方が好い位である。諸君が所信に忠實である事は甚だ結構であるが、諸君の標語とする「萬國の勞働者團結せよ」なる言葉は一體どこで用ひるつもりであるのか。主義主張に忠實なる事を直に頑冥にして一歩も人に讓らざる事なりと考へてゐるのではないかと思はれる。否むしろ自己の專制的地位を擁護することに急にして、他を排撃せざれば止まぬ偏狹なる心情を抱いて事物に臨んでゐるのではないかと云はれてもほとんど辯解の餘地なき狀態ではないかと思ふ。かゝる狀態では運動の擴大は勿論のこと、弱少なる勢力の統一すら絶對に不可能である事は云ふ迄もない。諸君の敵は何處にありや、諸君の目標は何處にありや、尤大なる勞働大衆は旣に長く組織の外に放置せられてゐるではないか、何時の日に諸君の理想とする產業組合組織の大同盟は成立するのであるか、多くは望まない、單に現在諸君の同僚である組合勞働者相互が、親善なる關係を結ぶの日は果して何時であるか、諸君は果して現在の如き陣營の混亂を目前にしつゝ、しかも尙理想社會の將來の時を語り得る勇氣を有してゐるのか。

五

諸君は予の無禮なる言辭に定めて激怒する事であらう。しかし勞働組合運動者に對する親切なる忠言は今日決して存在しないのである。予の惡罵をも、その精神を酌んで暫らく可を貸す雅量を乞ふものである。

予は端的に云ふ。諸君の專制的氣分を絕對に排除せよ。同僚の言に充分耳を傾けよ。暫らく自己を犧牲として多數の意見に從へ。少數意見を强要する事なかれ。要するに合議を基礎として運動を行つて陣營を擴大せよ。即ちデモクラシーの精神を體得せよ。予の言は單に以上に盡する。

尙繰返して云へば將來社會の建設はデモクラシーの精神を基礎とする。勞働階級はデモクラシーの政治を高唱して資本主義國家に肉迫する任務を有する。今無產階級の獨裁論は敢て論じない。しかし少くとも無產階級內部に於けるデモクラシーの必要は何人とも異論のないところであらう。故に僭越を顧みず敢て我國の勞働組合運動者に告げる。予は諸君が充分革命的精神を有してゐる事を信ずる。然らば諸君の間にデモクラシーを建設する事は當面の急務である。それが不可能である間は予は敢て諸君の將來社會の建設の能力を疑ふ者である事を明言する。何となれば然らずんば諸君の組合運動は勞働大衆を抱擁する事に到底不可能であるからだ。國民の信賴を得る事は、尙更に前途遼遠であるからだ。

六

諸君の理論の論評は暫らく措く。それよりも諸君は先づ勞働大衆が何を欲してゐるかを知らねばならぬ。大衆の要求するところに從つて行動することに諸君の義務的任務が存する、諸君の理論を大衆に强要するのではない。先づ大衆のために働け、次いで大衆を導け、諸君の理想は遠い。諸君は先づ大衆の中から出直す必要があるのだ。大衆運動を試みんとする諸君は、デモクラシーの精神の必要を痛感するであらう。事實あらゆる運動はデモクラシーを基礎としない限り、ほとんど成立の見込がないと云つて好い事を諸君はその體驗からとつくに知つて居る筈である。古い頑冥な理窟に執着することを捨てゝ、新しき偉大なるものを生み出す事に努力して貰ひたい、それが予の滿腔の希望である。

今や無產階級の政治運動の聲が諸方に叫ばれてゐる。諸君が政權を目標として戰はんとする時、その準備は既に出來上つてゐると云ひ得るであらうか。新しい運動に乘り出さんとする時、陣營の統一は一層緊要である。勞働組合運動の精神はデモクラシーに存するが故に、此際諸君の一考を望む次第である。(完)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産階級教化の要は就かしむるに在り

鈴木厚

「從來支配者階級は、新聞紙書物學校の管理によつて、勞働者に對する鐵鎖を鍛へて來てゐる。啓蒙の機關は、民衆の精神を愚鈍になすことの爲めの手段に、巧に變じてゐる。されは都市及地方の勞働者が、ブルジョア思想の害毒より、彼等の精神を淨め得る時は、遙か一層速かに、經濟的解放が來るであらふ」このブハーリンの言葉は「プロレツトカルト」の意義及目的を、適切に言ひ現はしてゐる。

「プロレツトカルト」卽ち「無産階級敎化」と言つても、僕に考へ得られるところのものは、吾々資本家帝國主義の階級敎育に傷つけられてゐる者が、民衆を上の方から敎へ導くことを、其れは意味するのではない。何故かなれは無敎育な、つまり比較的階級敎育に傷つけられてゐない無産階級の人々の方が、吾々よりは寧ろ來る可き社會への明確な理論を本能的に把持してゐるものであるからである。少くとも敎化する者として敎化される者に對する僭越は、何ら其處には存しないのである。

されは敎育上の最も進歩的で公平な理論は「敎へるに非ず、導くに非ず、就かしむるにあり」と說く。「就かしむるにあり」とは、人間の自然性に就かしむるの意味である。而してこの考へ方は「無産階級敎化」にも適用し得る。ダーウインの自然科學乃至はマルクスの社會科學の理論が、吾々に明示してゐるがやうに、速かに資本家帝國主義の階級敎育の害毒より民衆の精神を淨め、經濟的精神的解放を期する階級鬪爭の自然性に就かしむるにある。

日本に於ては多くの場合多くのことが、忘却されかけた時刻に、理論の分野より實行の分野へと移る。「プロレツトカルト」の問題もこの範疇を出でない。フエビアン協會の如きは、講演及出版物に於て大いにそのことの爲めに努力をなしてゐる。少くとも努力せんとしてゐる。而してフエビアンの總決算日に於て、其れが其れの仕事の中の最大なるものであつたことを實證せんとしてゐる。

時代の推移は、今や小規模なパンフレツトやリーフレツトや雜誌等にのみよる「無産階級敎化」では滿足しない。大規模なたとへは日刊新聞とか社會主義日曜學校とか社會科學研究會とか組合內部の勞働者獨習會とかいふやうな種々なる形態、種々なる名目による「無産階級敎化」を、既に其れは要求してゐる。而してこの時代の要求に、吾々は如何にして如何なる程度にまで適應せんとするか、其れはかなり重大な問題である。

空想より科學への――無産階級政治運動

梅津四郎

無産階級解放の爲めの社會主義の論を唱へた者にマルクス以前に英國にも佛蘭西にもあつた。チヤールス、ホール。キリアム、タムソン。サン、シセン……と。而し科學的社會主義理論を完全に言表はし得たるものはマルクスに於てであると云ふて差支あるまい。我が國の社會運動が年々此のマルクスの科學的理論に立脚しての運動へと進化(空想より、現實性への推移)して來た。數年前より時代に逆行した經濟鬪爭一點張りの運動者も年々現實に立脚して政治鬪爭を硏究し且つ主張し始めた事は云はずもがな非科學的行動より科學的行動へ進化し來りたるものである。所で科學的理論なるものは無政府主義(空想主義――非科學主義)に對しての謂にして、共產主義の事であると云つて差支ない。何故に無政府主義を非科學的理論と言ふか? それは目的乃至理想及び手段方法があまりに現實より かけ離れたあまりに現實に逆行した手段であり且つ理想であるからである。

若し此の人類社會に彼等の稱ふる手段方法をもつて、彼等の理想――政治も法律も無き社會が建設し得るならば自分否何人と謂へども勿論無政府主義者の叫ぶ理想に對して反對する者があらうか? 政治、經濟、道德各方面に於て何等の束縛も何の專制もなく、我々は自由と平等と相互扶助を望まんとする者である。

又此等理想を建設せんとする道程に於ても政治も法律も度外視して出來得る事ならは、之に對しても我等は贊成するものである。而して我々がストライキ其の時に於て又は解放運動の爲めにする演說に於てさへ法の壓迫によつて自由を束縛され、干涉、蹂躙とを擅いまゝにされて我等が戰線を妨げられて居るのである。若し我々が政治の一部分の行動(議會行動)によつて此等無産階級解放運動の障害を取りのぞき得るならはより以上我々の解放運動は進歩し進展することであらう。手段方法に於ても政治――法律を否定する經濟鬪爭一點張りの無政府主義を以て任ずる者と謂へども、彼等の階級鬪爭中に於て損害金、解雇手當の請求すら法律によつて法の力で戰はねはならん事があるのである。我々の日常生活は皆政治によつて把握され、何一つとして政治的支配を受けないものはない。其を思ふたならは如何に我々の解放運動上に此の政治が關聯して居るかが解り我等は政治的方面を硏究し且誘導する事によつて無産階級解放運動がより早くより可能になし得らるゝかが理解されるであらう。此處に於て我々は先づ無産階級の解放運動上の道を開拓すべきものは政治行動でなければならんと考ふるものである。然れ共我々は政治行動それのみによつて我々の解放は最上且つ可能なるものとは信じない。積極的なる解放運動は經濟行動であり、消極的方面には政治行動と二者兩々相待つて初めて完全に且つ可能なる解放が成就し得るものである。然してその政治運動は、經濟行動に立脚した所謂上部構造であらねはならぬ。今までの因習によつて政治行動は議會を通じての局限された政治行動と誤

十二頁へ續く

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會運動分裂の
現勢より其統一へ

吉田一

一

現在の政治家が、自階級の擁護の爲に政治を行つてゐるにかゝわらず、政友會、政友本黨、憲政會革新倶樂部と分れて居り、そうして互に抗爭してゐる事は、それは民衆に對する欺瞞であると共に、一つには己自身の利己の爲に吸々としてゐる事を意味するものである。

是等、政治家輩の分裂、抗爭、仲間爭ひ、を指して常に邏罵を浴びせかけてゐる者は外ではない。之れは社會運動家の連中である。彼等、社會運動家の所謂、主領株の人々は、現政治家の仲間爭ひ、抗爭等に對して嘲笑してゐるのみではない。其の反面には自分等自身のエラサを誇示してゐる樣にも見えてゐるのである。

然し乍ら、こゝに我等は深く顧みなくてはならない事を是等、嘲笑者連の中に見るのである。これ等、現在の政治家の愚を嗤つてゐる者が果して自分を顧慮する時にそれが至當であるか。又は不當であるか心附くであらう。

想ふに現今の我國社會運動界の狀勢を觀ずるに、其の多くは、果して確固たる團結をしてゐるか何うかと云ふ事である。私の觀る所によれば、何れも是れも一つとして團結!ほんとうに陳腐な言葉かも知れないが!してゐる社會主義團體が皆無であると云ふ事である。

若し、國家主義團體、國家社會主義團體、無政府主義團體等の主義上の相違に據りて生ずる所の不統一、分裂、抗爭等なれば、いざ知らず、事をかくにも、日頃、團結せよ!結束せよ!と聲を嗄らして叫ぶ吾々、同主義上の社會主義團體が一つとして團結してゐないと云ふ事はそれは、彼等ブルジョア政治家を罵倒し、嘲笑する前に先づ自らを深く省察して、顧みる所が無ければならぬ筈である。

而して、其の社會主義團體の不統一、分裂、抗爭、仲間爭ひ、なるものが、今も尚ほ、暗黑の中に續けられてゐる有樣である。前記の如く、是れが他團體の抗爭、衝突なれば、まだいゝとして、それが吾々の仲間の中に不斷の抗爭を續行して行く事は、敵階級即ちブルジョア階級に對して、吾等のすきを見せる事になるのである。ましてや、現今の如く、反動の潮流は世界的に渦を捲いてゐる有樣ではないか。にもかゝわらず、暗黑の抗爭常なく、團體的のそれなれば、まだ許せよとして、それが、苟くも、個人間の抗爭であるに於ては、斷じて許す事は出來ないのである。それは、社會運動をやつてゐると否とにかゝわらず、正直な社會運動家の公敵と見なして差支ないものである。

二

頃日、當地新聞紙上に於て「露西亞共産黨の內訌」及「勞農露國の內亂」と題して、連日の新聞を賑わしてゐたが、果して、それが眞なるや僞なるやは、窺知し得ない所であるが、或は私の露西亞入り、當時の傾勢と聯想して見て、これが當然ではあるまいかと思ふ者である。果して然らは、これが眞相や如何と云ふ問題にまで、延引するのであるが、(此處では評論はしない心算である。今少し、この問題が新聞紙上に相違なき事を認め、然して、問題化する時には、私はこれに關して少し卑見を述べて見たいと考へてゐる)私は今、其の問題はこゝには述べないが、昨年七月上旬、日本社會運動界を突如、昏迷寂寞の暗夜に雷鳴の如く、稲妻の如く、更には平和な陶然に地震の如く、全日本の無産階級を震撼したものがあつた。それは、諸君も今だ、記憶さるゝが將に、彼の「日本社會運動討閥」の出來である。流石、平々凡々只々私利私慾にのみ、仲間爭ひ、を續けてゐた、吾社會主義團體は今更乍らに驚いた。仲間連中より驚愕したのは地方の純心な青年諸君であつた。

露西亞の內訌、內亂等は第三者—「討閥」運動を第三者が見て判らない樣に—が假裝しては容易に其の眞相が把握出來ない。第三者とは、こゝに云ふ日本の社會運動家の事である。然し乍ら、一度露西亞の地を踏み、多少共、共産黨の內幕を見聞せる者には、凡そ其の何者なるかは概略、推察出來る事である。

露西亞共産黨主領、ジノビエフ氏一派と赤衞軍の頭目、トロツキー氏との抗爭、仲間爭ひ、は果して日本の、昨年起した、「討閥」の樣なものではなからうか。

三

昔、凡そ現在より百年以前迄には、主從の間が濃厚であつた。否、現今にても、其の精神は、僅に小學校、中等學校等に傳えられるのみである。然し乍ら、その潜勢力は、根強く、社會意識を構成してゐる。

古のそれは、社會組織の反映として、社會的に其の精神を一般社會に植付けられてゐた。殿の命令は自己の命の如きものであつたそうして、家來なるものは、忠實に其の命令の動く儘に動いたのである。

或時代には、それ〲其の當時の社會事情に基いた騷動あり、反亂あり、陰謀があつた。そうして其の中に働いた主腦は、勿論、偉大なる人物に違ひ無かつたのである。國定忠治にしろ、其の背後には、國定以上の人物と謳われた、日光圓藏が影の形に添ふ如く、終始、附き、面倒も見、又は相談に應じ、支配してゐた事は事實である。由井正雪は又、その兄弟分としての、若しくは、第一の乾分としての、丸橋忠彌などを片腕として持つてゐたものであつた。天下を取つた者の一例を揭げれば、豐臣秀吉の如き者は、やはり、其の乾分等を可成り、可愛がりもし。又これに據つて己の大望を滿足さしたものであつた。

それらは、舊昔の社會組織の下

に於ける所の當然の形態に過ぎなかつた事は認められる所であるが然し乍ら、現在の社會に於ても、又それと、同じ樣な事が、可成り至當な迄に、認められはしないだらうか。

昔のそれは、主人の爲には、自己の全生命を捨てゝ、主人を擁護する事であつた。それは、主人の奴隷であると斷言出來る。然し乍ら、今日のそれは、かへつて、その反對の立場に立つて考察さるべきものとなつたのではあるまいか卽ち、社會運動一方の主領たるものは、毫も己の位置や、名望に囚われてはならない。寧ろ後より擡頭する所の青年運動家等を拾ひ上げてこそ、先驅とも云われ、又主領とも謂われるのではあるまいか

四

こゝ二三年の間に、急速に進捗し、發展を遂げて來たものは、政治運動であつた。

政治運動の發の隆まると同時に現在にては、無產政黨の樹立を最早や、眼前に据立しゐる樣である

それと共に、政治研究會、日本フエビアン協會、等の政治團體が續出した。そうして、其れ等の團體は、日本勞働總同盟、日本農民組合、水平社等の諸團體と共に、將に無產政黨樹立を待つてゐる爲合となつてゐる。

勞働組合の精神が直接資本家との鬪爭以外に、やはり、社會〇〇の一部屬構成するは最早、判り過ぎた話である。そうした、資本家との鬪爭より、一步、經濟鬪爭なり、政治鬪爭に向けて行はれるのも、强ち、斂かれない事はない譯である。眞の政治鬪爭と、無產階級の意識が、共通の一致を見ない迄には、其の政權の掌握も六ケ敷しい事であり、又其の反面には社會主義社會の實現を遲滯せしめるものである。勞働組合が、全國的に團結して、そうして、政治鬪爭にも進む事は、より以上、無產政黨の勢力をば、いや增して行く事に外ならぬのである。勞働組合の諸團體か、今だ、全國的の一致を見ず、將又、組合利己心の爲に、久遠の理想を誤る事は、取りも直さず、それは、分裂、仲間爭ひ等の原因を胚胎する基であると言わねばならぬ。そうして、其の間に介在する原因の種は、個人間の爭鬪と云へるであらう。組合利己心は換言すれば、個人の利己心となる。否、必ず、其の影には見えざる黑手が蠢いてゐる事は、容易に想像出來る事である。

五

斯樣にして、社會運動界、勞働運動界は、事々に、其の分裂の度を多くして行く。最近の日本勞働總同盟對關東同盟會の中に於ても、醜き抗爭があつたからである。それは、主義上の爭ひ、とも云ひ、又地盤爭ひ、であるとも聞く。何ちらにしても、仲間爭ひ、と云ふ事は感心したものではない。然し乍ら、主義の爭ひ、は前文にも云つた如く、それは止むを得ない事である。否、寧ろ、當然の成行でなくてはならぬと思ふ。

勞働總同盟は、政黨樹立に與して、急速度の大右傾を見せた。否見せたに非ずして、其が當然であつたとも言へるのである「當然」とは、其の內部に於ける人物の云爲についてである。果して、ボルセエビストとしての、指導者が居たか、何うか。私は、解するに苦しむものである。

日本の社會運動史を繙いて見て果して、これが眞の社會運動史であると言へるであらうか。

その裏面には絕えず醜惡なる力ラクリがあつたのではなかつたかブルジョア政治家の事をば、罵倒し、嘲笑し、セ、ラ笑ふにも、先づ吾等自身の中に、それが事實を顧省せなくてはならぬ。實に、吾等の運動は個人間の中傷と、誹謗と議論に終始したと言つて過言ではなかつた。そうして、それは未これからも續くかも知れない。否それは遺憾乍ら、續くと叱言せざるを得ない。然し乍ら、吾等は人間である限り、なるべく、そう云ふ事をしたくないと願望するであらう。然らば、それ等は自づと消えてなくなりはせぬか。否、一面に私は又、無くなる事をより以上希望するが故に無くなる事を信ずる者である。吾々の任務は重い。吾々の理想は未だ、遙の彼方にある。それを想ふ時、吾々は、一刻も油斷ならざる事を感取出來るであらう。

露西亞の革命は七週年を過ぎ、着々、其の理想に邁進せんとしてゐる。露西亞革命の如く、革命成立後に於てする所の、仲間爭ひ、（は決して是認するものではない）は、革命後の事態だけに、敵階級の慴伏した後の事だけに、多少は許すべき所があるかも知れない。然れども、今だ敵階級の城守、儼然としてゐる際に、己の利益はかりを考へ、社會全體の利益を思わざるの徒は、宜敷く、社會運動界から、其の身を退くべきであるそうして、今や、其の退くべき時は來た。社會は益々、多事多端である。資本主義制度の副產物、不況時代の颱風は全日本の都會より農村に吹き荒んでゐる。

吾等は行叟も、無駄な時間を浪費してはならぬ。それは一日も早く理想社會の實現の爲てある。

そうして手品の樣な、玩具の樣な、遊戲半分の社會運動家は早く足許を洗つて置くがいゝ。己の足許に最早、火の迫つてゐる時に、逃げ出してもそれは遲い。

「治安維持法案」が再び現はれ出た。まず、これが、一つの「過激社會運動取締法案」となれば結構である。（完）

讀者諸君に告ぐ

「進め」は、一思想團體機關誌でもなければ又組合の機關誌でもない。

進めは無產大衆の資本家階級への戰鬪機關誌である。

この意味に於いて、諸君の進めに對する希望と感想と云つたやうなものを、どしどしおくつてもらいたい。

そしてそれを出來得る限りに於いて實行して往く考へである。

――編輯部――

十頁より續く以下

解する人もある樣だが、無產階級の眞の政治行動の謂は議會外の政治行動であつて、ただ國々の國情産業、教育の狀態の如何によつて手段として議會行動をとる事もあらうが、議會政治其れのみが手段目的であつてはならない。

これ議會外の政治行動と經濟行動共に科學的理論に立脚したる眞の無產階級解放運動である。（完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

當然三つに分るべき
現社會の黨派

―社會政策派、社會主義派、無政府主義派―

石川準十郎

(一)資本主義社會の行き詰り

昔に較べれば、社會の「生産力(物を作る力)」は驚く程増大して來てゐる。元來「生産力」と云ふものは「勞働方法」と「勞働用具」とに依つて決定されるものであるが、人間はその「勞働方法」と「勞働用具」とを絶えず改善して來た結果、今日の樣な驚くべき「生産力」を持つようになつたのである。昔一人が日に二十本しか拵へ得なかつたピンが、今では大工場に於て一人當り日に二千本からも出來る樣になり、昔農家で女達が何日も何日も掛つて手車で紡ぎ手ハタで織つた布類は、今では大工場に於て工女一人當り日に何反と云つて織り出されて居る。昔一ケ月掛つて旅した道程は、今では汽車に乘つて只一晝夜で行ける樣になつたし、昔は罹つたら最後神佛に祈るより外に仕樣のなかつた傳染病も今は大部分癒される道が開けた。――然るに、それにも關はらず、大多數の人々は貧乏に追はれ生活に困り、陰慘な、いら立たし日を暮らして居る。而もそれはだんだんひどくなつて行く。これは一體どうしたわけのものだらう?「働けど〳〵我が生活樂にならざり、ぢつと手を見る」と云ふ石川啄木の歌は、杉浦翠子さんと云ふ女流歌人の方から見ると「如何にもわざとらしい氣障りな歌である」さうで、「そんなに貧乏なら何故働かないか」と仰せであるが、然し杉浦さんが何と仰言つても、大多數の人々にとつてはそれが働くべからざる切實な實感なのである。

所で或人々は考へるかも知れない。それは人口が多いから貧乏するのだと。昔英國のマルサスと云ふ學者は、「人間は幾何級數的即ち二、四、八、十六と云ふ樣に殖えて行くのに、食物の方は算術級數的即ち二、四、六、八と云ふ樣にしか殖へない。だから貧乏は社會にとつて已むを得ないものである。社會のどこかの部分がこの貧乏を背負はなければならない。所謂貧乏階級即ち無産階級がそれである。」と、云ふ議論を立てたものである。が、このマルサスの人口論は當らなかつた。その後の事實に依れば、人口はマルサスの言つた幾何級數即ち二、四、八、十六と云ふ樣に殖へなかつた許りでなく、或國の如きに於ては大體そのまゝ殖へもせず減りもしない狀態さへ見せた。そしてその一方には、「生産力」は却て數倍乃至數十倍、物に依つては數百倍、數千倍の發達を見せた。食物の生産力も人口の増加に比しては遙に増加した。マルサスの勘定は明かに間違ひであつた。日本の樣な人口の殖へる率の非常に高い國でも、それはあてはまらない。そして今ではどんなブルジョア學者でも、マルサスのこの説を其まゝで信奉する者は無くなつた。

そんならばこの世の中の貧乏の眞の原因はどこに在るか。「それは社會の仕組のどこかに缺陷即ち惡い所があるからだ」とは、今日眞面目な學者の一樣に認むる所である。

(二)社會政策と廣義に於ける社會主義

この現代社會の貧乏は、社會の仕組の何處から出て來るか、即ち貧乏の社會的原因如何を詳しく論ずるのは、私のこの論文の目的とする所ではない。私が此處に明かにしようとするのは、この社會的缺陷を直さうとする主義主張には大體幾派あるかである。

行き詰まつたこの資本主義の社會をうまくやつて行かうと云ふ主義主張には、先づ大體二通りある即ち所謂社會政策「社會改良主義とも云ふ」と廣義に於ける(社會主義、改造主義とも云ふ)の二つである。

所謂社會政策即ち社會改良主義に於ては、「資本主義社會の行詰りを認め且それは社會の仕組のどこかに缺陷があるが故であることも認むるが、然しその缺陷は資本主義の根本制度たる、私有財産制、乃至自由競爭制度に在るのではない。寧ろ他の方面にあるのである。隨つて、この世の中を善くして行くには、資本主義を廢止する必要が無いのみか、資本主義をば大體そのまゝにして置いて他の方面を直した方が宜い。且つ斯くすることに依つてのみ社會は幸福を實し得るものである」となすものである。即ち、これに依れば、現資本主義社會の行き詰りではなくして、改良すれば資本主義は尚發展し得るものである、且社會の幸福はこの資本主義を溫存せしむる方にあるとなすものである。されはこの主義は一名「進歩的資本主義」とも呼ばれる。日本に於ては早大の鹽澤博士、商大の福田博士等がその代表的學者であらうと思ふ。

之に反して、廣義の社會主義即ち社會改造主義に於ては、「現代資本主義社會の行き詰りの根本原因は、資本主義の根本制度たる私有財産制度乃至自由競爭制度にあるのである。だからして、この世の中を善くして行くには、唯一資本主義を廢止するより他に途がない。社會の貧乏はこの資本主義の根本制度を廢止して、これを共同所有及び共同經營とすることに依つてのみ除き去ることが出來るものである。それを資本主義制度を大體そのまゝにして置いて、この世の中から貧乏を無くしやうとするものは、丸で手を濡らさないで泡を掴まうとする樣なものである。」となすものである。

今日の行き詰れる社會の展開乃至打破に關する主義主張は、大體以上の二つに分れる。

(三)社會主義と無政府主義

然るに、廣義に於ける社會主義

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は又、社會主義と無政府主義の二つに分れる。社會主義に於ては、政治的に權力（隨つて政府乃至國家）を必要とし、經濟的に經濟組織の集中的やり方即ち全國的統一的やり方を採る。即ち社會主義に於ては、國家權力に依つて、生產機關を共有にし且全國的共同經營をして行かうと云ふのである。

之に反して無政府主義に於ては全然初めから政治的に權力（隨つて政府乃至國家）を必要とせず、經濟的に經濟組織の分散的やり方即ち部落各自的（各自給自足的）やり方を採る。即ち無政府主義に於て國家權力なぞと云ふものは全然無必要なものとなし、萬事自由意志の自由承諾で以て、小さな各共產部落の共產生活を營んで行かうと云ふのである。

廣義の社會主義は、大體以上の社會主義と無政府主義の二つに分つことが出來るものである。

隨つて之を要するに、この行き詰つた世の中をどうかしやうと云ふ主義主張には、結局左の三つの派があることになるのである。

一、社會政策派
二、社會主義派
三、無政府主義派

而して今日所謂、ボルシエビズム、コンムユニズムと國家社會主義、社會民主主義、ギルド社會主義と云ふ樣なものは、皆この二に屬するのである。以下マルキシズに就て少しく檢べて見よう。何故なれは今日ボルシエビズムとかコンムユニズムと云ふのも又國家社會主義とか社會民主主義とか云はるゝものも皆一種のマルキシズムに過ぎなく、ギルド社會主義は勿論サンヂカリズムまで又その影響の下にあるものだからである。

（四）マルクス社會主義

マルキシズム即ちマルクス社會主義に於ては、無產階級は先づ國家權力を支配階級より奪取し、その國家權力の運用に依つて社會主義を實現する。そして社會主義が完成の域に達して初めて、國家は無用のものとなり、自然死を遂げるが如く廢絶される。即ちマルクスと共にマルクス社會主義を建設したエンゲルスはその著「空想的及び科學的社會主義」の中に、この間の關係に就て次の如く言つて居る。無產階級は先づ國家權力を奪取し、而して生產機關を國有にする。然し、斯く爲すことに依つて、無產階級としてのそれ自身を廢止し、あらゆる階級差別及び階級對立を廢止し、且又國家としての國家を廢止すると。

斯樣にマルクス社會主義に於ては、無產階級は先づ國家權力を奪取しなければならないものであるが、そしてその奪取の方法には、「議會」に依る方法と「〇〇」に依る方法と大體二通りあるのであるが、マルキシズムからすればそれはどちらで行つても差支ない。それは主としてその國の事情、就中支配階級の態度に依つて決定さるべきものである。「議會」で行けは當然「多數決主義」で社會主義を實現して行くことになり「〇〇」で行けは當然「少數社會主義者の專斷主義で社會主義を實現して行くことになる。どちらが適當かはその國のその時の事情に依る。前者の行き方をば今日普通「社會民主々義」と云ひ、後者の行き方をば所謂「共產主義」と云ふのであるが、そして或人々は後者を以て前者より何か徹底したエライものでもあるかの如く思つて居る趣きがあるが、私の見る所を以てすればこの二つの行き方には本質的に何の相違もない。要は唯所謂平生にあつて非常時の覺悟をして居れば宜いのだ。

尙又マルクス社會主義に於ては遂には國家は無用のものとなり廢絶されるものであることを豫言して居るがこの時期は明かでない。マルクスもエンゲルスもこの點に就ては何等明說して居ないし、レーニンも只『我々は空想家でないから、國家はいつ頃どうして無くなるか明說することが出來ない。が然し國家存立の原因の消滅と共にその遂に無くなるであらうことを信ずる。』と云ふ意味のことを云つて居るだけである。だからしてマルクスの社會主義に於ては相當長い間國家は存在するものと見るべきだらうと思ふ。

（五）野の名瞭化の必要

以上社會政策派・社會主義派、無政府主義の三つの流れは、普通選擧の實施と共に益々その分野を明瞭にしなければならない必要に迫られて居る。

現今ブルジョア政黨は皆悉く結局社會政策派即ち進步的資本主義の立場に落ちて行くより他はない。

無政府主義派は初めより國家權力の奪取を何等必要としないのだから、元より政黨を作る必要もない。この立場からすれば政黨組織の如きは問題ではない。

然るに社會主義派は國家權力の奪取を目的とする以上先つ無產階級政黨を作つてそれに於て結び合ふ必要がある。何故ならば、現在の事情の下に於ては、「〇〇」方法に依る政權奪受の行き方は、目鼻の付き樣がないからである。）但し治安維持法案が實施され、過激な壓迫が行はれたら、事情は變つて來るだらう）。いづれにしろ「力」の問題である。そして「力」は團結と共に成長するものである。されば無產階級解放のため國家權力奪取を目的とするあらゆる社會主義派は、先づ與へられたる手近な所で結合すべきである。

けれ共喧嘩と云ふものは稍々もすれば近い間柄に起り易いものである。日本無產階級運動は、今にして互に戒心して掛らなければ血で血を洗ふ樣はことになるであらう。それには私は、何より我々はお互に人格的でありたいと思ふ。「人格」と云ふものは何も空中に浮んで居るものではない。又それは或人々の言ふが如き支配階級の觀念でもない。實にそれはいつの世の中にも必要な社會生活的性質の集合である。（完）

――募　集――

「進め」二週年記念號を、眞の無產大衆のものにして見たいと思ふ。地方の諸君の原稿を募集する。

うんと奮つて投稿してもらいたい、然し投稿規定は守つてもらはないと困る。

用紙　原稿用紙
字詰　十五字詰、百五十行以内

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

虐げらし者の旅（宣傳旅行記）

大迫繁夫

「オーイ…出さねいか……早く出さねいかと……」署中にひゞき渡り相な聲で叫んで居る男があつた……

それは名古屋市の新榮町警察署の留置場の二、三、五の各室から口々に叫んで居るのでした。

「いゝとも今主任看守が居らないから來たらすぐ出してやるよ」とおとなし相な當直ハ男は彼等に一々返事をして居た、其の日の午後五時頃であつた高等課の主任は一人の男を連れてやつて來たのでした。しばらくすると當直の男は大きな鍵を振りまわしながら彼等三人の男を出してやつた「あんまりやかましく云ふから出してやるのだ……ハハハ……」と大きな笑ひを殘して又自分の處に歸つて行くのでした、彼等三人の男と言ふのは一人は洋服着た男で他の二人は着物であつて皆若い者ばかりである、そして洋服を着た男を〇〇と言ひ他の二人を〇〇〇〇と言ふのでした。而して此の三人の男が此の留置場にほり込まれるまでにはこうした經路をたどつて來たのでした。

十月といへばまだ暑い十一日の日でした多數の男に見送られて京坂電車の天滿橋を出發した三人の男があつた彼等は皆大きな荷物を持つて居た……言わずと知れた此の三人は田島、後藤の一行である彼等三人は本社の命を受けて今度信州路より關東の方面に宣傳に行くのである。話は此所より始まるのである。

七條の停留所に降りたのは其の日の午後一時頃であつた。元氣良く彼等は同志であり支局である大路と言ふ宅を尋ねて行つたが不幸にして不在たつたのでそれより一行は宣傳の爲に又パンを得る爲に京都の町を歩き始めた、彼等一行の姿……それは既に共產主義の快物である……赤色のよう快は三十三間堂より淸水に向つて進んで行つたのでした。淸水の舞臺からあたりをながめて居た彼等は「いいね京都の町は」三人は口をそろへて京都の町をほめたゝへて居た。：彼の周圍に居る人は皆着かざりしブル階級の者のみであつて彼等赤色の快物の如き風をした人は唯の一人も居らなかつた……着かざりし乙女を見る毎に胸にも靑春の血は流れて居た……否……熱と愛とよりなれる階級鬪爭に殉ずる一兵卒なる彼等には尙更の事であろう……いつしか虐げられて鍛つけられたる三人の胸にも何とはなしにブルジョアー的氣分に醉つて仕舞つて居た。「京都と言ふ處は美しい處が多い處だね……」「美人の產地は〇〇と京都だもの當然だ何を言つてやがるんだ馬鹿奴……」相變らず後藤は口を入れてはまぜ返して居た。途中の茶店の前まで降りて來ては「松茸めし」と大書したる建札を見ては食う事の出來ない自分を思ふては何だか鼻の先につきつけられて居る樣な氣がしては又プロレタリヤの悲哀を覺へずには居られないのでした。三人は今までの意氣もくぢけて唯すご〳〵と其處を立ち去るのでした、あゝ今彼等の眼に映るものはもや美しい乙女ではなかつた。松茸めし、のそれでもなかつた、映るものは唯飢餓の魔手のみなのである。すご〳〵と歩み行く三人の後姿は丁度飢にせまりてさまよひ歩く樣といはふか……實に悲慘なものであつた……然し本人は飢ては居たが元氣なもので處所さへあれば何時でも演說を初めんばかりであるが然し武士の子ならぬ叛逆兒は飢には勝てはしなかつたが無理から元氣を出して新京極に足を向けたのでした。

とある食堂の前まで來た三人は懷中の金と値段書とを見くらべて居たがやがて食堂に入つて行つた……やがて彼等三人の前にはこび來たつた膳に食い次第の飯……それは何よりも三人を驚かし又喜ばしたのでした。

「驚いたね食い次第だなんて……ゑ……」

「驚いちやつたよ……京都の人は皆おとなしいんだね……」

「實際だよ大阪だつたら三日で食ひつぶされて仕舞ふよ……」

「ほんとうだよ……」

彼等はこんな會話を交へつゝ勝ちほこりたる「がいせん將軍」の如くに……新京極の町を歩いて居るのでした。

新京極の通りの角でした。風になびく「赤旗」の前に彼等は交々立ちて演說を初めたのでした。見る〳〵間に人は黑山の如くに集まつて來た……熱心な人々は動かうともしないのでした。辯士は段々と熱を揚げ出た……丁度二十分ばかりやつて居た時でした。いつもながらに官憲の魔の手は伸ばされたのでした「一寸交番まで……」と

無產階級の聲

赤迫秀郎

×

年末の街頭は殊に繁忙である。が、貧しい者は、吾 不關焉 と粗衣を纏ふて、悠々 濶歩してゐる。

——君 一寸待ち給へ
僕は刑事 だがね
少し訊きたいことがある……

こう、後から 呼びとめた者があつた。
已れは 街路に棒立になつたのである。
もう物見高い都人士が人垣を作つてゐる。

×

已れは極まりない、貧しい者である。が 獨り 正道を踏破する者である。そして眞理はどこまでも討究する。
永久に老いない、一個の靑年である。垢染んだ粗服着流してゐるからとて
自由人 を 街頭に呼び止めて迄。
訊問せなければ わからないやうな、此の頃の 刑事などが なさけなく思ふ。

×

ある、深夜であつた。
已れは、すつかり寢靜つた家並の軒燈を仰ぎ見乍ら 漫ろに街路を歩んでゐる。
昨日會ふ パン を思ひ、故鄕の母妹が 貧に疲つれた面影を想ふ と、一枚の煎餅蒲團の中にても 安閑と睡つてゐることは どうしても できないのだ。
夜更の風迄が 無情なく肌に染み渡る。

×

街頭の交番所の火鉢には、炭火がカンカン をこつてゐた。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

巡査は三人を引つ張つて行きかけたとき突然群集の中より出て來た一人の男は我等三人の爲に巡査にこうしようを斯めてくれたのでした。而し横暴な官憲はがんとして應じ相なはずはなかつた「よし」其の男は何か決心したらしく默つて仕舞つた、三人は默々として巡査と一緒に交番所について行くのでした其の時でした以前の男は三人の中の一人をつかまへて力づよくはげましてくれたのでした「僕は京都水平社の一同人ですが……もし奴等が檢束とでも言つたらすぐ僕の處に（京都水平社本部）電話をかけたまへすぐ本部員を何人でも出してもらつてあげるよ、なあにお互に無産者同志じやないか、助け合ふのがお互の任務よ……いいですか本部は電話××××番だからね……」「ありがたふ……」水平社同人に別れて又彼も交番に向つて步き出した………

「貴様等は水平社と結託してやつて居たんだらう……不穩じやないか……」特に巡査の眼はするどく光つて居た。

其の後はやはり形式通りであつた「じや御苦勞だが本署まで」「水平社の男が居るといかないから裏口から出て與れ……」やがて三人は命ぜられるまゝに交番所の裏口から出て行つた而して五條警察署まで道々は唯あの親切な「水平社の同人」に感謝しつゝ……五條署の高等は相變らず「交通妨害」で刑を執行すると言つて仲々は歸さうとはしなかつた。やつとの事で三時間程後條件付で署を放たれたのでした……

夜九時頃からぼつ〳〵とふり出した雨はいぢ惡くも彼等をどんなになやました事だろう……天候までが、我等を虐げねば損の如くに虐げる樣に思はれるのでした、雨は仲々やみ相にもなくふり續いて居るのでした、無理から大路氏の世話で七條の勞働豫備軍本部に一日の宣傳につかれ切つた上に雨でぬれ鼠になつた身體を横たへた時は早十一時を少し過ぎて居たが親切な無產兄弟は時もかまわず我等を慰めてくれたのは、充分すぎる程であつた、常に社會より虐げられつゝある者同志の間には土地の差別はなく溫き情は流れて居るのでした而し社會は此の叛逆兒を溫く卯へてくれ相な事は無かつた。

其の翌日十二日の夜の事であつた……一日町中を宣傳して步き、丸山公園では三人の交々振ふ熱辯にすぐ人山を築いたがそれも卅分程で「解散」を命せられ其の他の所でもやはり同じ樣におはれ又おはれて一部のパンフレットも賣れはしなかつた、而し我等が宣傳途上の最大の使命である「演說會」を開くべく其の打合せに同志伊藤氏の宅につかれ切つた身を落ち付けて「ほつと一いき」つく間もなく三人には最後の時を宣告されたのでした

……すべての望みを失つた彼等は此の京都の町を去るより他に道はなかつた、「建鬪を祈る」と同志の言葉に送られて伊藤氏の宅を辭した三人は其夜は同志片野氏の宅に御世話に成るべく伏見の町に行つたのでした……。

かくて三人は一都市にでも定まりし宿なく轉々として次から次にと同志の宅をたよらねばならなかつた、而しそれさへも橫暴な當局は許さなかつた、明日は此の地を立ち去らねばならぬ樣に餘儀なくされて居るのでした。

翌十三日の朝三人は親切な同志によりて得たる僅少の金と借り飯とを持つて落武者の如くひそかに京都を發つたのでした……名古屋に向つて……かくして第一の旅程（大阪より京都まで）は逃げる樣にして又第二の旅程（京都より名古屋まで）に向つて進まねばならないのでした。

あゝ此の大都市を去るにも我等を送つてくれる者は唯？…そは同志の「建鬪を祈る」言葉のみではないか……それ以外に唯醒めざる人々の貧しき者に對するぶべつの眼のみである、心安らかに落付き得る處は唯汽車に乘つて居る少しの間と同志の宅とのみではないか何と云ふ冷たい世の中であらふ……而し貧しき者に對するぶべつの眼持つ人を醒めせしめるのが我々の責任ではないか、今我等の苦しい旅も其の一端に資せん爲めではないか……。唯「建鬪を祈る」の同志の我に激勵の言葉それは何と云ふ力强い言葉であらう……。

……安らかな汽車の旅……それも僅か二三時間で今行く先第二の奮鬪地名古屋に彼等三人を卯へてくれるもの……そは唯留置場のみとは——過度期とは云へ餘りに虐げられねばならん——而し牢獄に向ひ——斷頭臺上に向つて進む前衞隊の者にはまだ輕い——かも知れない。

その側に　巡査が一人、居睡つてゐる。

——寒くていけないのです……
少し溫くもらして下さい……
重い硝子戸を引開けて
こう　已れは　歎願した。
——それは　出來ない。——
査公　は　言下には跳付た。
加之、又ぞろ　小六ツケ敷い
訊問を初めたのであつた。

×

無產者よ、——純勞働者よ……
おゝ　已れが　唯一の朋友たちよ……。
屋外に營々と叱吼しつゞける
お前たちを　眞に羨む。
現在の　已れには、鬪爭に耐へる
こともできない、癈疾者となつて
了つたのだ。
貴已れたちには、
寒しい冬は禁物である。
お互に自重して……。
戰線に……。
目覺しく、進んで呉れ給へ……

嵐の前に

大山勝義

黃昏の街を行く沈默の群よ
勞働者は汗に染れて
女工等は埃を浴びて
サラリーマンは
磨り減つたゴム靴を
引摺つて
默々と步む
飢え
疲れて喘え乍らも
なほ沈默を守る無產者の群よ
雄辯は銀
沈默は金である
嵐の前の靜寂のごとく
木枯し吹き荒む
街頭を
たゞ默々と
無產者の群は行く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

岐阜縣下に於ける
戰跡の一端

報告者　佐伯新助

序

吾々自覺せる無産青年が、常に踏み來る經路であり、當然に來す決果である處の官制青年團除名排斥は、今更のやうに新しき出來事として既青年團の横暴と、然も無態とを、全無産青年諸君に報ずる迄でもないが、その横暴と無態を紹介するのでなく、今吾々が踏んで來た經路が、そして吾々の既青年團に對する策戰が如何にまずかつたと云ふ事を諸君に知らしめると倶に、鬪かはんとする諸君に、又鬪爭塲裡に在る諸君により良き策戰と戰術を持つてしられん事を望む意味に於いて、此の一文、同志水野貝三郞君の青年團除名の概況の報を掲載する。…(係り)…

水野君は、岐阜縣下麻生町の官制青年團員として、吾々無産青年の爲めに、否、無産階級の爲めに勇敢に鬪いつゝある同志であつたが水野君は不幸にして本青年團々長原氏より突然除名の通知狀が來たのであつた。其の除名通知書の内容を私が一見すれば水野君は本青年團の發展及圓滿を阻止し攪亂する事甚大なるが故本團會員及其の職を除名するとの理由通知書命であつた、そして水野君としては團長氏の除名命を甘受される決心であつた樣でしたが。水野君は此の事件に付き大意に反省され。此の問題を早速第三區支會長に報告し第三區支會にては、ただちに臨時總會を開き、水野君除名問題に付き協議會を開催し。此の席上へ本町青年團長氏を招き。今回の水野君除名に關する理由根據を團長氏に質問し。團長是れに應答して曰く……?

今回本青年團正會員たる水野貝三郞君を除名したに就ては本團に取り重大なる根據がありし爲め團長一個人の職權を持つて水野君を除名した樣な次第であるが。其の理由根據をあぐれば。第一に本青年團としての修養機關をさかのぼり歷史的に觀察しれは本青年團も社會の奉仕的事業に澤山携はり且又かなり難解な問題も幹部評議會に於て通過し全會員も是れに服從して來たのであるが、しかるに今度水野君を本團評議員に選出され部評議會に於て常に吾々の意見案に反對說を述べられ會議場を攪亂され眞面目な青年會員を煽動しするが爲めに評議會に於て通過する議案も非決し青年團として行ふべき事業が出來なかつたのである團長、爲る者として本團々長の爲に如何に努力しても其の功むなしくして水野始め他二三の者に攪亂せられ、ついに公設青年團も全く其の爲めに破壞せられるの他はないのである。かゝる危險思想の持主たる水野君を永久に會員として置く事は斷じて團長として相反すそれに警察當局自治團長本團特別評議員顧問等の先輩の諸氏より水野君を除名せよ若し除名せないとしたら我々は辭表提出すると叫び團長にせまられ異議を申込がある爲めに、公設青年團の代表者としての立脚がなく。私一個人としては水野君には好意を持して居る者であるが水野君一人が大事か本青年團が大切かの問題により除名をした樣な次第であると團長の意見報告があつたのである。それより報告が終ると同時に第三區青年支會長氏は。

「諸君！今回の水野君除名問題に付き吾々支會員として如何なる對策を講ずべきであるかと全會員に意見を問はれは會員は個人個人に意見を述べましたが結局共通の意見は吾々會員は水野君を信頼し當然是れを認め本團評議員に選出したのであるから水野君を除名される者なれは、吾々も結束し一丸となり除名を甘じて受けるが當然であるとの意見が滿塲一致にて可決されそれを團長にせまつた。さすがに團長も全會員の自覺と團結振りに恐怖し明日私宅にて水野君除名問題特別會議を開くから今日は唯理由の報告にすぎないと云つて團長は早々に歸宅せられたのであつた。

それより支會にては六名の委員を選擧し水野君除名問題特別會議に列席し團長氏を向に起て、六名の委員との論戰討議辯論が續けられ其の結果、水野君除名は取消す事になりましたが。其の變り團長より四ケ條の要求を水野君にせられたのである、其の要求を記せは左く如くである。

第一條　本團評議員兼圖書部長を辭職し辭表を提出する事

第二條　本團正會員となり本團の協同作業に從事する事

第三條　本團の協議事項に發言權を禁止す。

第四條　本團總會前に先起ち會員を煽動したと認めた時はただち除名す。

以上四ケ條の要求をしたのであつた。吾々委員としてもあまりに團長の要求が無暴なる要求であると思ひましたが一時議塲を退塲し團長の要求を水野君に報告したのであつた。

水野君は此の四ケ條の團長の要求に答へて曰く……。

團長氏の意見によれは本團の發展及圓滿を阻止し攪亂する事甚大なるが故に私を今回除名したとの說明でありましたが。私は本青年團を攪亂したり。あるいは發展を阻止し樣とは考へて居る者でもなければ社會思想を宣傳し青年團を破壞し樣とも考へては居りません青年團は青年自信のものでなければならないと考へます、そして我々青年會員は自主自治を目的とする理想的な青年修養の機關を完成せんが爲めに評議會に置き總會に於いて或時は團長氏の意見を尊重し此れに賛成し或時は團長の意見も否定し反對說も述べて來たのである。先ず青年團員の大多數は朝は早く夜はおそく迄工塲に於て田畑に於いてあるいは山中に於いて過激なる勞働に從事し精神的も物質的にも悲慘なる生活を送つて奉仕的事業に携はり國家の爲めに盡さんとする意識はあるけれども吾々プロレタリア青年として經濟がゆるさない爲めに其の事業に從事せざる事を餘儀なくさるのである吾々青年團に加入する事は國家の義務であり又自分として名譽でありとせねばならないものであるが吾々勞働青年として此の澤山の事業に携はる事は出來ず且又最近本青

二十八頁へ續く

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全土戰報

茨城縣

『進め社』に關係してゐる一友人の話に依ると今迄茨城縣には進めの直接の讀者は餘りなかつたと言ふ事である。從て本縣の狀況は未だ紹介された事はないと思ふ。豈てペンを執つた次第である。凡そ本縣人程階級意識に盲目な縣人は、恐らく全國でも珍らしい事と思ふ。それだけに之を覺醒せしむるにも非常に大きな力の必要を切實に感ずる。他所は不知、自分は自分の町に就て書いてみやう。

◇現在土浦町には二つの青年政治團體がある。『惜春會』及び『龜城立憲青年會』がそれである。何れも昨年の總選擧を前に憲政會後援の目的に出來たものと記憶する。總選擧には當町の原修次郎と言ふ木像を代議士にするため、自動車を飛して騷ぎ廻り、法網をくぐつて盛に買票をやらかした連中である。食ふ事には心配の要らない道樂息子等の遊び仕事である。殊に前者は永井柳太郎と言ふ男を名づけ親に持ち會誌『惜春』を發行して近在に相當の會員を有つてゐるので鼻息は中々に荒い。田舍の青年で感心に何かやつて居るかと思へば政治屋におだてられてブルヂョア代議士の尻押し仕事位の所だから恐入つて了ふ。今の青年はお定りの如く官製青年會の會員樣だ。少し氣候が良くなつて來ると、修養旅行とか何とか言つてチョク〳〵遊びに出かけるけ位が積の山。強いて取り所を見つけれはせい〳〵火防宣傳か交通整理位のものだらう。

◇東郷館と言ふ宿屋の亭主に染谷忠助と言ふ道樂者がある。此の男熱心な帝國主義者で小新聞『大日本帝國主義』を發行して良くあきもせずと感心する程縷々數萬言を費して帝國主義の宣傳、過激思想の攻擊、さては何とか言ふ肺病藥屋式の敬老主義の皷吹に餘念がない。其のレーニンを嘲つた論說中に『レーニンは聖人に非ず大智者に非ず、體驗によりて始めて現行共產主義の不合理を悟り。非を知りては改め得ざりしレーニンは遂に大偉人にも非らざりき』は笑はせる。而も論說に都々逸入りだ。所がこれに共鳴してゐる二十代の社會の木鐸子其他がゐるから世の中は益々珍だ。

◇霞浦飛行場に近く屢々雲の上人の御來浦があるせいか官憲の神經過敏は氣の毒な程だ。昨年來攝政宮殿下御來浦の際等は、道路工事に使用してゐる鮮人全部を、慰勞會と稱して一劇場におしこめて了つた有樣。『天子樣のお顏がおがみたい』と言つて號泣した鮮人もあるとの話である。

◇雲もようの空を飛行機が縱横にとびまわつてゐる。霞浦の一角より同志諸兄の健鬪を祈る。

（黎忍生）

朝鮮・馬山

黄金萬能主義の今日、金を以て人と買賣し金を以て人を支配爲し覓り金の權力を以て人家を引釣ろうとし甚だ敷は看板僞りの愛國者が國を憂ひ夜中に人を誘拐し柔道三段威張り手に三人の咽喉をメ殺し古井戸中に良心もあつたか？秘密を隱し、其秘密が露現され七年の長き懲き刑を受け、牢屋に掘込まれた妙なる莫迦くらしい事もあつたが、近頃は基督教徒の神聖博愛なお方等が、横着な事を遣つて小說の一否童話材料になり相な面白い話がある二ツ三ツ述べよう。本年朝鮮內地で大災害の爲め、三百萬の人民が餓死の巷に釣込れ運命を、朝な夕に任せて、見るも聞くも皆涙の種に成つた事は未だ世人の記憶に餘る事であつて、救濟金を組織し以て奔走に絕へ無い事は推想爲す事であらう。『人生は共存共榮て暮さう』『兎死すれば狐が悲しむ』と云ふ古き格談の通り獸にも如斯き美しき事がある、況んや我々は萬物の靈長だ、世間の主人公だ、相互ひに愛し慰めそうして飢へたる者には有る者は、餘る者は人に分け倉の門も放開しパンを與へ、衣を頒布するのが人間の禮儀で、美しい人情である事は言ふ迄も無い。人は餓死しても、人は凍死しても己れは腹さへ太り溫まつたらそれで滿足であり愉快であると言ふ奴は、人間で無く、唯人間の面に化けた獸あてる。（勿論現代金持つた者の大概はそうである、慈危く慨と云ふも世間の耳目を恐れ厭々乍らやる癖である）而も朝鮮一隅の馬山も朝鮮と同じく、十六團體の主催で胸を病め乍ら、頭を惱まし救濟會を仕組んで何方でも三十錢以上の金を出す人には正會員と認め委員諸氏等は夜も晝も會員募集に紛れたのだが、事務に精細多忙な警察の方から是れには未だ總督府の方からも何の取締規則の通牒が無いから濟ま無いが禁せとの命令が下つたので救濟委員等も切角の事じやが、望の綱が絕れたので仕方無し、弱い人等は普樂演奏會を催し僅かな入場料と寄附金とを併はせて兄弟に頒ち、金持つた者等に訴へる外に道が無いから其方に遣るとの一致になつて禮拜堂の借す事を交渉したが、直に快諾を得たので此上も無い榮へたと皆は胸安めたのであつた。所が彼基督教の方から何んだか精神に異狀を來たしたか、動もすれば神聖博愛人に抵抗はしない、而して虛は言は無いとの其麼飾り言葉の善く使ふ彼等が時日を自殺的に延期を爲し結局は事情あるが故と唱へ拒絕の鐵槌を下した、憤慨に絕へ無い會員は其の理由を問ひたれば彼基督教中百萬長者たる、其位は長者に云はれる李某は斯麼に答へた『救濟會は勿論贊成だ、だが基督教は神聖な從つて禮拜堂も神聖な譯だ、而して博愛なる物にも制限があるからだ』と曖昧な事にもモルヒネ注射見た物のキリストの魔醉劑を以て誰れにもやり驅ける。斯麼調子は誰にもやる者でない事を豫め知らなければ不可よ、謎な昔に其麼事を宣傳せよ、君等所謂博愛神精は薄哀辛制だ、莫論信仰は山を移すと云ふから信祈すれば災害に預つた人家が救はれると過かに思つて居るじやらう、火水の中へ入つてもパンは食はず共アメンか、世界に是程阿ホらしい莫迦らしい事が何處の國にあるのか、何と云ふ神樣に敎へて貰つたが解らない役に立たない禮拜堂何んかは乞食の住居にやれ、然も無きや人肉の市場でも設け給へ、如何に闇の深な眞つ暗い此の重き石は流れ木葉は沈む阿部古部になつた世であつても、未だ〳〵情義はあるじやらう、况や同じ同胞の間柄で死して未來を空想に惑はず生きて命ある現實に生き來たる可き未來の開拓に勉め。

元頭五日間の地方支局訪問記

— 龍一郎 —

東京驛を出發したのは、三日午前であつた。

どうも正月の汽車の中には一人として人間らしい面をした奴がない。と云つて今の場合腹を逆立てにした處で如何とせん術もなし、近き將來の復讐をも先ず頭に描いて眼を閉じ、その時の痛快さの取越しでもと、小春の陽光を硝子窓越しに浴びながら未來の戰場へと夢路を辿つた。

……………………

夢は破れた、以前として奴等の面は並んでゐる。

程なくして第一日の豫定地、三島驛に着いたのが、その日午後四時頃、寒い北風は可成り〳〵勢いで吹き捲りやがる、『三島町迄で十町』の程表を見て電車賃を節約て、パンフレットの入つたカバンの紐は、肉に喰い入りそうだ。寒い……今更のやうに、金の有難さに感心しながら、やつと三島町に辿り着いた。未だ見ぬ同志に會ふのだと云ふ心は云い知れぬ期待を持つてゐる。

第一日は終つた。

岐阜縣の山間にある、下麻生町の支局に旅裝を解いたのは、四日の午後。

平野を過ぎると山又山……と穴の中に引摺り込れるやうな感じをしながら來た、此の山間の僻地にも俺達の同志が居るのか？然も支局が在ると思ふと昨日の腹立たしは何處へやら。處が處丈けに運動は、至極地味なそして根強いものである官製青年團の勢力は何處に行つても同じであるが此の地の青年團は最近の支局同人諸君の運動

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

實に可哀相だ、君等クリスチヤンの罪でない過まりて吾、君等の頭を崩す云はば君等の響なる宗教其物を却つて頭から撲滅するのだ、力が及ばなければ社會主義の注射—眞理の良藥を施す方が第一何より得策だ、歐洲戰亂資本家吊鐘だ斯の吊鐘の鳴るに伴ひ諸君が欺かれた假面を取る事が出來るのだ是れから段々亡び行くのだ、是が君等の末込だ反省せよ、我々と共に—いざ手を……（金享潤）

鳥取縣

今より五年前から、鳥取縣米子町に、古橋喜吉と云ふ頑迷不靈そのものゝやうな署長が、去年の十一月まで居つた。米子町は山陰道の工業地で思想的な青　三百人餘りもあつたが、皆此奴のために壓迫されて、止むなく土地を去らねばならなかつた。

然るに今なほ孤壘を守つて、鳥取、島根の大衆を導きつゝある服部芳樂君や、千藤美明君や、昔し戰線同盟の猛士山本勇君等は、踏止まつて萬丈の氣を吐いてゐる。

この惡辣なる署長は、演説會を開かんとすれば、小屋主を强迫して、會場を斷らしめたり、開催の屆出に行つた者をそのまゝ檢束して歸さぬなど、實に言語同斷である。折角借り入れた小屋でも、飽くまでその暴行を逞ましくして遂には演説會をめちや〳〵に破壞し終るを常とする。

嘗て宮城檢番の愛さんと云ふ藝者が病氣で廢業したい意志あるも抱主に虐待され、服部君に救ひを求めたことがあつた。で服部君は直ちに藝者を同行して、署長に面會し、廢業させた。其の際の署長の顏といつたらそれは〳〵奇妙奇テレツなものであつたさうだ。そして別れ際に、小言で藝者に曰く「ツマラヌ事を喋つてはいかぬぞ」だとそれは何時かその藝者を强姦同樣のやりかたでものにしたことがあるからだといふことである。この署長先生は町中の女をつけねらふ狒々の樣な男なんだからさもありなんと思はれる。

この藝者の廢業以來、署長は服部君を目の敵にして、その家主に追立てを命じたが、家主は『あなたから直接服部さんへ話して下さい』と云つたが、署長は自分の弱點を握られてゐるのでこの話にそのまゝ立消えとなつた。

米子地方では一般に、森橋署長は、黴病だといふ噂が擴まつてゐて、永年の積惡が祟つたものだらうと云つてゐる。いづれ遠からず腐つて失ふことだらう。

この男は、先頃、日野郡長にあつて江尾山中を獨りで歩いてゐたところへ、山本君と千藤君が通りかゝりに行き違つて「こ奴だ、恨を晴らしてやる」と云いながら立向たところ、先生驚くまいことか顏色蒼ざめて、命から〴〵逃げ出した。斯の如きは實に往昔の惡代官そのまゝの民衆を敵とする役人である。（村井生）

京都市

高塔伽藍京は千年の古都である。詩の都よ、花の都よ、クラシカルな都よ、俺達はもうそんなつまらぬブルジア的感傷氣分は止めにせう「一切の歷史は階級鬪爭の歷史である」とマルクスは聲高く叫んでゐる。おゝあの高塔伽藍こそ、『勞働して今日も暮しぬ』所謂大宮人の在りし昔の榮華を語る置物ではないか？おゝあの一甍一柱にも彼等のために虐げられた民衆の反逆の血と肉が永遠に固く〳〵刻みこまれてあるのだ。誰か京を山紫水明の地と言う、東山の翠峰は煤煙に黑ずみ松籟は徒らに資本主義斷末魔の悲鳴を擧げてゐる。賀茂に淙々の響なく水底寒く露はれて友仙の色に染り革命の鮮血を想はする眞紅の流れ若き吾人の腦を躍らすだ。モリスは曰く『水の代りに汚れた茶褐色の液體が流れるテームス河が必ず將來に於て昔の淸澄さを恢復するであらう』とおゝ想だ、俺達の社會が訪れたら賀茂川の流れも淙々として淸澄な昔の姿に還るだらう。祇園に誇る々櫻も淸水冴ゆる月の光も俺達民衆のものとして心から樂む秋が訪れるであらう。（冬彼生）

靜岡縣

土地を私有する地主が、人口の增殖、人智の發達及小作人の努力等によつて必然將來すべき土地價格の騰貴といふ現象によつて、如何に不當な利得を貪りつゝあるか。又その爲めに知らず〳〵の間に人のいゝ小作人階級が、どんなに苦しめられて居るかといふことは今更書き立てるまでもないことであるが、最近地方に起つた事件の如きは、其標本としていゝ實例であらう。

それは志太郡益津村の小作人十四名が今から、二〇年以前地主から、何にも穫れない不毛の土地當時坪二〇錢位を借受け、あらゆる努力を費し、心血をそゝいで之を開墾した結果、數年の後茶園柑橘園として、漸く相當の收益が得られる迄にすると、血も淚もなき橫暴なる地主は、貸借に期限の定めがないのを盾に取り此の土地を坪八圓で他に賣却した爲めに、小作人は將に其土地を取上げられやうとしてゐるのである。

此事件は勿論一例に過ぎないが、而しそれはあらゆる小作人對地主の關係に當てはまる事例である。即ち地主共はあらゆる機會、あらゆる機關を應用し、ヤレ多收穫だヤレ品質改善だ、何だ、かんだ云つて、少しばかりの餌で小作人を釣つて地價を吊上げ、少しでも餘分に搾り取らうとするのだ。收獲の增加は勢ひ地價の上ることで、それは小作料の引上となつて、唯懷手をしてゐる地主の利得に較べ農具、肥料を自擔して死に苦しみに働く小作人の努力が如何に不合理に報いられるか云ふまでもない事である。

然し斯ういふ不合理は、土地私有制度の存續する間決して免れる事の出來ない現象なのだ、たゞ之だけの問題を解決するだけでも吾々農民は固く團結する必要がある況んや吾々の力を待つて解決さるべき大問題は山と積まれてゐるではないか。

農民諸君！特に靜岡縣の農民諸君！吾々は米を作ると共に組合作つて、土地と自由を獲得するために鬪はなければならない。（稲島鐵一）

岡山縣

前號で無產職工の叫びと題して報道した岡山縣東二郡の瓦職工等は愈々昨今に至りては自覺して賃金値上げ問題に就て奮起し職工組合を組織し瓦同業組合即ち工場主等に向つて對抗し値上げ實行せんと活躍しつゝあるが若し工場主等が之れに應ぜざる場合には同盟怠業せんと意氣込んで居る一月中には職工組合の實現の豫定である、同職工等の二三が吾が支局に對し援助方を請ふ所あり小生も瓦工場の關係の一人なる故に一命をとしても無產職工の爲〃に助力する事は辭さず一日も早く實現實行せん事に奮鬪して居る（倉本晃南）

が功を奏してほとんど乘奪つたやうな狀態である、益々喜ばせる。眞面目な然も熱心な人達に依つて伸ばされて往く此地の運動は、實に賴もしい。水野、佐伯の兩君の今後の活躍を想像して一層の心强さを抱きながら、兩君に下麻生驛頭で別れたのは第三日の朝。

「中部青年運動同盟」を訪れた。「同盟」は、若い工場勞働者の人達で組織されたもので、晝間は誰も居らないと云ふので、同人兒玉君の宅を訪れた。地理不案內で聞誤着く事三十分、遺憾なく鈍感振りを發揮する、だが東京見物の赤毛布程にもなし。

夜のとばりは岐阜の町々にも降されて來た。銀座のまばゆいやうな、不自然な明るさはないが、靜かにかゞやく町々の電燈は、淡い故郷戀しの心をそゝる。とんだエピソートを失敬……

會する人達悉く意氣盛んにして當る可からざる、少壯氣銳の鬪士のみ坂井、木村、兒玉その他に八名の同人諸兄と談ずる事數時間。此の地の運動も矢張り潜行的にして飽く迄も强く敵の心臟を突き刺さずんばあらず、と云つた樣な運動振り。大小數多の工場を有す岐阜にこうした運動が起つた事は嬉しい、あのもう〳〵として立昇つて居る煤煙下に吾等の同が抱迫害と虐げの鐵を斷ち切つて赤旗を振りかざす日の遠かざる事を告げてゐるものである。又青年運動の中部に於ける中心地となる事も近き日に見られるであらう。

第四日愛知縣の支局を訪れる。極度の壓迫と迫害の中にあつて山口君誰一人孤軍奮鬪。

その意氣や賞讃に價いし、君の努力を感謝せざるを得ない。

第五日は爲す處なく無爲に終つて汽車に搖られる事十時間にしてやつと本部の猛者連の顏を見たのが六日目の午前五時半。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

青年運動より見たる
政治運動觀

佐藤光敏

はしがき

現下、將に政治運動の叫び、全日本を蔽ふてゐる折柄、これに對する無産青年の立塲は最も、ハツキリとさす必要がある。これらの諸考察によつて、吾等は自らの進むべき道を發見せんとし、そうして、其處に吾等の運動の全生命を據つ塲所を見究めるものである。それが當今、吾等の運動の前提的仕事であると思ひます。

一

政治運動の本流が、議會に占むべきか、又は街頭に置くべきかは今此處に問題とはしない。「凡そ社會革命は政治革命である」と云ふ、マルクスの言は、果して、何ちらの政治運動を指してゐるかは是も亦、科學的考察を要するもので、果して、何ちらであると確言は出來ないのである。

私が、こゝに問題とする所ののは、青年運動——これに一括さるものは、一般、無産階級青年を謂ふ——の立塲として政治運動を批判せんとする所以に外ならない。而して、これが問題は實に現下の最大急務である。政治運動に對する無産青年の關係は政治的有機系統を延いてゐる。青年は何時までも青年ではあり得ない。齡を加ふれは、一個の成人として、政治に關與せねばならない。然し乍ら青年それ自身の現在の立塲としては、やはりこの問題を看過する譯には行かない。それには此の問題に對して徹底的の考察を成し遂げねばならぬ。

二

政治運動の主流が、若し議會にありとすれは、吾等は、政治運動を一つの若くは、全部的に議會運動と假定する。この政治運動によりて、〇〇を起さんとすれは、卽ち英國流の社會革命と稱しても差支ない。果して、これによりて社會〇〇が成遂け得られるや否やと云ふことである。卽ちこゝに云ふ社會〇〇とは、私有財産の撤廢人間權利の平等を意味するものである「勞働者は勞働の新なる組織を樹立するために、何時かは政權を掌握しなければならぬ。然し我々はこの目的を達するための經路は到る所同一であると主張するものではない。我々は、種々なる地方の制度や、慣習や、慣例やを顧慮しなければならぬと云ふことを知つてゐる。そして我々は、米國や英國の如き國々では——もし私が此國(オランダ)に於ける制度をもつとよく知つてゐたならは、私は多分それにオランダを附加へるであらう——勞働者が平和的の經路で、彼等の目的を達し得ることを否認するものではない。然し、一切の國々では皆そうだと云ふ譯ではない」(クノー著「マルクスの社會國家理論」雜誌「急進」に據る)

マルクスはこれを一八七二年アムステルダムでなした演說の中で右の如く云つたそうである。これに據るとマルクスは「我々は、米國や英國の如き國では……勞働者が平和的の經路で我等の目的は達し得ると云ふことを否認するものではない」ことは信じてゐたものである「然し、一切の國々で皆さうだと云ふ譯ではない」こともその考への中に附け加へてゐる。然し乍ら、「ブルジョア國家は暴力革命に依つて廢止されべきものである」と斷言したのは外でもないマルクス直系と稱せらるレーニンの言葉である。果して吾等は何ちらを信じていゝものだらう?。マルクスは「勞働者が平和的の經路で彼等の目的を達し得ると云ふことを否認するものではない。」と云ひ、レーニンは斷乎として「ブルジョア國家は暴力革命に依つて廢止されべきものである」と云ふ元祖を末流との溝渠は儼然として兩立された。然して、後者は最早「ブルジョア國家は暴力に依つて廢止され」たものであり前者は未だ、其の實現までには至らない。

三

吾々は、如何に英國の勞働黨が其の政權を自己の掌中に握る共、ブルジョア階級の圈内に潑勢を得てゐる限り、絶對に勞働黨は自黨の欲するまゝに其の權力の行使は出來ないと信ずる。と共に、其れが私有財産撤廢は不可能事であると斷言されるのである。然して若し、我々權力掌握の後、同黨の欲する儘に權力を行使せんとするも一度若し物理的背景を有する軍國主義者の反對を受けては、一溜りもなく其の政權を拋棄せなくてはならないのである。而して、こゝに、政治の基本的前體は「力」にあると云はるべきである。故に「力」の絶對的自信の無き限り永遠に「〇〇〇」は來らないと證言出來るものである。

四

吾等は、これを信ずるが故に、自ら、青年運動の目的はこゝに發見する。卽ち「力」の基礎的要素としての運動である。

然して、吾等の運動の本流をこゝに置くとすれは、現下の政治運動に對しては、如何なる態度を取るかと云ふ問題である。これについては、無産階級は絶對に其の第三者にあれと斷言する。換言すれは、現ブルジョア政黨のお提灯持ちや、幇間屋の眞似をする、所謂青年黨の如きものであつてはならぬと云ふことである。政友會に於ける國粹會、憲政會に於ける大和民勞會、革新倶樂部に於ける地方青年黨の如きは其の例である。

然らは、若し、吾々、二十五歳(將に現はれんとする普選案に據る)の青年が一票の投票權を得た塲合如何なる態度を取るかと云ふ事である。この塲合、横斷的な青年運動團體一例を揭げれは、進め社を中心とする全日本青年同盟の如き—の一員であるとすれは、其の時には、青年同盟の決議に據つて行かなければならないであらう。然れ共、ただの一無産青年である塲合には如何なる態度を取らんとするか。

其の時には、其の人の考へにも據るであらうけれても、私は、其の時に日本の又は世界の社會事實の傾勢に據つて、此の重要なる一票を投じて貰ひ度いと思ふ。そうして其の塲合ごとに「ブルジョア國家は暴力革命に依つて廢止されべきもの」でなくてはならならぬと深く胸裡に刻み込んで行かれ度いのである。(完)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

政治運動の危險性と青年運動
——無産青年の全國的——組織化に就いて——

大路龍一郎

一

過去數年間に亙つて、破亂曲折分列を續けながらも、可成りに擴大した來た無産階級の陣營に、最近の普通選擧の天降りを前にして一つの新しき陣容を起て一度分列した戰列を此の普選を中心とて漸時再び相寄りつゝある事は事實である。然し相寄るとしても、それは内的にも外的にも完全な結合であるか何うかは、第二義的のものであつて、唯當面した普、に對する無産政黨の樹立が、相寄る可き一基因であると思ふ。

又事實に於ても最近の無産階級の陣營に流れる一の有力なる支流は此の政治運動の流れである。此の支流が普通選擧の天降り實際化に當面して現在では解放運動の本流であるかのやうに擴入しそれに依つて陣營の全勢力が集中されつゝあるのである。然し日本に於ける社會運動乃至勞働運動の過去より現在への發達經路を觀る時にそれは、當然の成行であり、又當然の歩み方であると倶に、今後に於ける解放運動の一支流である處の政治運動も矢張りそれと同じ歩み方をするものではなからうかと云ふ事に現在の日本の青年運動の意義と使命を見出すのである然し是は青年運動として一部分的運動であると倶に吾々の運動は現實を離れて其處に在存しないが故ある先ず青年運動として現實に面して夫に對する使命を論ずる前に前述の今正に生れんとする無産政黨の質的成行と大體に於る黨の運動の結果を考へる必要があると思ふ

若し現在のまゝに進められるとするならば（日本農民組合、勞働總同盟、その他政治研究會、フエビアン協會—是れ等は外形に於いて異つて居るも本質に於て同一のものである——今漸く再び結合の機運に向ひつゝあると云ふ、その他の組合、傾向を異にするものに依つて組織される無産政黨）それは、果して如何なる程度のものが生れるであらうかそれは現在の日本の實狀から往つても、當然に「リベラリズム」の運動であり、完全な議會行動から一歩も出ない事は明かである。そして政黨それ自體の質から往つても、（現在の要素がそれである）第二インタナショナルの程度が、その黨の山ではなからうか、然しそれを諒解するには吾々の運動には裏面運動と表面運動の戰術を以てせなければならない、要するに現在の運動は所謂表面運動であつて、その裏面に潛在する處のものこそ吾々の運動の本流である。吾々は常に、此の本流に棹さす事を忘れない。）て居る。少く倶そのと云つ氣持ち否、そうした戰術こそ眞の無産政黨の持すべき戰術であり事實に於て現在には、その戰術を黨の戰術として鬪いの前に備へて居るであらう事は疑はない。

然し乍ら夫が實際に當面し無産政黨として行動に現はれた時に於てその戰術が完全に議會行動の上に動くであらうか夫には幾等か考へざるを得ない夫が何故であるならは現在のブル政治組織網の内部に於ける運動であり普選其ものゝ性質から押して考へる時に夫は當然逆用されるものである事を第一期の第一黨として起つ無産黨の先づ無産階級陣營に齎す結果として覺悟せなければならない。

若しそれが、そうした結果を齎すとするなれば、無産階級の陣營は當然に、（階級鬪爭は、政治鬪爭であるの秘法で往くならば）漸く築き上げて來た陣營を置去りに一歩も二歩も退却するものである事は明かである、然しその退却それ自體が、やがて來る可き第二期運動の突撃に對する一の戰術であるとするならは、その退却も肯定しやう。然しその來る可き二期運動の要素すら見出す事の出來得ない無産階級の陣營にとつてそれは完全な退却である。

其處に現在の青年運動の當面する使命が明かに見出される譯である

二

今迄多く論じられて來た處の青年運動は、當然蜂起すべき處のそれに對する單なる理論に過ぎなかつたと思ふ。然し最早現在に於ては、そうした過去の運動の歷史を繙きその必要を云々して居る時期は過ぎ去つて居ると倶に、それが具體化されて往かなければならない時期に到達して居るではなからうか！到達して居ると思ふ。若しその運動が事實に於て、そうした時期に到達して居るとすれは、何が故に今猶具體化されず以前として進展して往かないのであらう。

先づその基因から論ずるとしてそれは餘りに單簡な問題である。

青年運動の必要を叫び、青年の使命を解き來た過去の運動は丁度空砲を以て稲田に群がる雀を追拂ふに等しきものであつて、聲を大にした時は、何等か動きつゝあるやうだが、それは一時的のものであつて鳴りの靜まつた頃には跡に何ものも殘つてゐない。追拂ふのが目的でなく射止めるのが目的であり運動の實隨である以上此の運動は空砲的運動でなく實彈運動でなければならない、其實彈そのものは即ち、無産青年に對する組織であり成す可き仕事を與へることを意味してゐる。然らは組織は何故に持たなければならないか、これは多くの言葉を並べるまでもなく（進め第三年第一號の『力は組織より生る』—進め讀者への一提案—吉田一氏の稿參照）吾々無産階級の運動は數の力による運動であるが故に當然組織を離れて力を考へることが出來ないからである

そして次に來る問題は、その組織立てられた處の無産青年の大衆團結團が何を爲すべきか即ち如何なる當面した仕事があるかであり組織を如何に活用すべきかであるそれが今全無産青年諸君に提案せんとすのこの稿の骨子である。

三

青年運動としての本流は、矢張り反軍國主義運動を他にして、何ものも見出すことは出來ない。然しこの本流に附隨する處の幾多の支流があることは、青年運動のみならず勞働運動、農民運動總ての運動に變りはないと思ふ。青年運動それ自身も矢張り社會運動としての一支流である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

先づ本流に對する支流の持つ役割を、例を以て云ふならば、今一國を貫通する大川が大雨のために大洪水が出たとして今尚雨は降りしきつて、最早これ以上に増水すれはその一國は大洪水に見舞はれなければならないと云ふ場合に、その大川の流れを助ける數多の支流が作らなければ、大川にあふれる水も支流によつて減水し、それと共にその國の洪水に見舞はれることも免れるであらう。

こうした意味に於て此支流の運動をより多く起さなければならない支流の運動も矢張り本流の流れを受てゐる限り底に潜流するものは反軍國主義運動である今迄に運動があつたとすれば夫は本流の運動であつて今起そうとする處のものは取も直さず支流の運動である。

然らばその運動は、何であるかそれは前述の現在日本の社會運動に一轉換期を劃さんとしてゐる無産階級政治運動に對しての無産青年運動の態度の決定と、その態度の決定による青年それ自體の政治運動の蜂起である。然しこの言には、幾らかの誤りがあるかも知れない、青年それ自體の政治運動と云つても、それは無産階級政治運動の別動的陣營を形作る意味でなく同一陣列にあつて、然も青年獨自の運動による意味である。何故に同一階級の政治運動の陣列に青年それのみの運動を必要とするそれは前述の如く青年運動の本流は反軍國主義運動であると倶に、又青年運動は一切の社會運動の側面運動である處に其意味があると思ふ。

四

大體に前述した如く現在の日本の社會運動は主として其主流は政治運動に向いつゝあり既にその運動の實際化に間もなき迄に進展してゐるのであるそしてそれが今後のとつて往く經路が前述の經路を踏む時にそれを支へて往く迄のものは當然に社會〇〇への過程に於ける運動の主流即ち重要點を持つて居る青年でなくてはならない。

吾等の運動が最後の目的に到達する其道程に於ける方法手段はその時の社會狀態に依つて決定されるものであるが故に、吾々は政治〇〇も、暴力〇〇、も肯定すると云ふ理論が最近眞正マルキシストであると云ふ人の間に論じられてゐる。（自分達も此理論は肯定し受入れる事は出來る。）

右の如き理論が正統であるとすれは現在の政治運動は現在の日本の情態に的合した運動であるとせなければならない（少く共その論者がそれを肯定してゐる以上）然し右の理論がその時の社會狀態に依つて決定されるが故に政治〇〇暴力〇〇の兩者倶に肯定する云々の理論から往くならば社會情態も吾々の陣營も決して定期的に變化するものでないが故に吾々の陣營には、常にその二要素が作られて居らなければならない、然し現在の又今後の無産階級の陣營に將してその要素があるであらうか先ず夫は可能でなからうと思ふ一切の無産階級の鬪爭が政治鬪爭と化し、然も夫が純然たるリベラリズムの運動となつて往く、それが無産階級を代表したものであるとすれは尚更にそうである。政治鬪爭速暴力でなければならない、然し今の運動方法が現實に嵌まつた方法であるならば、一方法としてのみ利用する事は肯定するが、それを無條件で肯定する譯には往かないと思ふ、其れ迄に青年それ自體の政治運動が必要になる譯である、然しそれも今起たんとする無産政黨と同じ程度であり同じ歩み方をとるものなれは、そうしたものには無必要である。

今云ふ青年それ自體の政治運動は、前述した如く作られてゐる、否作られやうとする無産階級の政治的陣營の中にある運動であるが故に表面運動は同一のものであつて、主動的運動は裏面的運動であつて、その表顯は、確固たる〇〇的觀測に基く行動であり、常に一切の行動は議會外にあつて然も議會內の無産政黨の行動に對する斷乎たる監視と確固たる階級的意識を持した其立場から、換言すれば最もヘツキリとした〇〇的精神に基いて、ブルジヨアの陣營を側面からの攻擊の役にあるものであつて、無産政黨、即ち今起つ第一黨をして、彼等の云つた、裏面に潜在する本流に棹さす事を怠らさないと倶に、より有巧により安全な流れに添はしめる事が吾々青年運動の當初のものであつて軈ては來る可き完全な內的行動に、即ち今迄て裏面運動とし後に劍を忍ばせてゐた、夫を表面に然も眞向から振りかざして敵の陣營に突進する時の、準備時代である。

五

現在はその準備に對する準備の時代であつて、日本に於ける青年運動の實際の當初である。

當初、即ち第一期を劃する時に當つて、先ず重要な問題は、組織の問題であつて、現在の無産階級青年としての陣列が全く孤影悄然たるものである事は吾無産階級の陣營にとつて大なる弱點である、

然し無産青年の組織化に就ては他の組合運動並に農民運動等が過去に踏み來つた如き經路をとつて往く事は、とうてい考へる事も出來得ない事である、一定した利害（産業的）を有して居らない事と地方々々の狀態と情態に依つて青年そのものゝ生活的差違と、思想的差違がある爲めに、根本的に相反する場合が多々あると思ふ。然しそうした情態にあるとしても共通して一貫するものは階級的對立に依る、強者に對する弱者の反抗であり、青年特有の熱情的慾求である。熱情は何時かは醒め得るものとしても、常に虐げられたものゝ反發力は永久に去らないであらう。弱者より強者への叛逆、その叛逆の一切は力を要求するその叛逆に依つて要求する力そのものは組織を離れて何者も存在しない。其處に青年運動特有の他と異つた組織化力を有してゐる。

そうした處から出發した組織化された青年の團結は、當然に力に基く團結である（例へは水平社の如き）が故に組織に於ける鬪爭も、そうした型態を辿つて往く處に青年運動の使命が存在する。又組織化して往く意義がある。

こうして今組織化して往く青年の團結は、前述の如く政治運動の流れに添つて往くとするなれは、やがては來る可き青年の活躍舞臺に前述の二要素を把持したる（鬪爭的政黨）無産青年黨とでも云ふ可きものゝ一母體であらなければならない。（完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め社便り

東京本部

■東京に本部を移して漸く一ケ月日を數ふる事三十日に充たずと雖陣容の整然、その活躍漸々相俟て昔日の面目一新の感あり。

■編輯部は、より一層堅實なる編輯振りを以つてより鋭き闘ひの双先を植附け名實共に無産階級戰闘雜誌を作るに努力すると倶に、發行日を確實ならしめるに努力しつゝある。

■新しく活動を開始したる宣傳部は、着々として進みつゝある。

■曾つて餘り確實でありし事を知らなかつた會計部の確實になりし事は特筆するに値いする。

その他社内の整理掃除に至るまで新しき眞面目な活躍振りを現してゐる。

社外にあつて專ら外部城塞を守り活躍しつゝある我眼に映じ感じた本部をお知らせする。（吉田一）

■戰は續く。一步、一步、我々は緊張しなければならない。一步が束縛への、搾取への一步であつてはならない。目標と其の目標に達すべき過程に對して確固たる信念を持つ我々は、稍々もすれば逆上しさうな血潮を凝つと堪へて其の緊張した一步々々を默足に墮ちぬ樣に努力してゐるのだ。進め社の平穩に似た空氣、それは嵐の前の靜けさであらねばならぬ。物凄い平穩――嘲つて呉れるな、革命は近づけりなんて言ふ奴もあるんだけれども平和は進め社の隣の家から續いてゐるそうだ。僕は每日一回づつ進め社の屋上に登つて天下の動勢を伺ひつら〳〵考へる。（谷口直平）

■第一回社會主義同盟の發起人の一人だつた同志大庭柯公の追悼會は去る一月十八日鶴見の總持寺に於て催された。參會者數二百名もあつたであらうが主義者仲間ではアナキストの岩佐作太郎、岡千代彦の兩氏に私位のものだつた樣だ。何の間違か知らぬが『同志の國』を訪ねて殺された大庭氏の心持の程を思ひ、私は心快々として樂しまなかつた。聞けば吉田一氏等がモスコーに行つた時は何の故障もなくて吉田氏等のために好意の露語で以て通譯などして呉れたのだと云ふのに。

■私は去年暮府下目白驛近く武藏野の畔に移つた。このあたりは尚多少昔の武藏野の面影を有して居る。時として私は疲れたる頭を休めるために杖を振つて散歩する。私は矢張りインテリゲンチヤである。私の胸はインテリゲンチヤの悲哀に咽んで止まないことがある。

■私は日本には日本流の社會主義があると思ふ。日本の社會主義革命は決して摸倣では行かないと思ふ。日本マルキシストの任務はマルキシストの普遍原則を日本の事情に如何にあてはめて行くかにあると思ふ。（石川）

大阪宣傳部

◇大阪方面の天地は依然天下泰平、近來さしたる勞働爭議もなく、況んや政治運動をや、無産階級は今靜かに考へ込んでゐる。

◇溯臘、天王寺公會堂で、弱小民族演說會あり。暴虐警察のため散々荒され、遂に解散された。同署の無智は大阪でも珍らしいものだ。

◇次に押つまつた年末を見込んで、勞働組合聯合の失業問題演說會あり。反總同盟の聯合ではあるが、その傾向は大して期待を望まれないらしい。

◇一月五日から六七八日と大阪を振り出しにフエビアン協會主催の講演會が開かれた。その熱心と、顏ぶれの揃つて居るのには、感心させられる。が所謂柄の惡い連中から無視されようとする傾きのあるのは、遺憾である。

◇一月六日には、進め社關西同盟泉南支局の山本辰興君が入營した日だ。

組合旗十數旗を翻し、村中多數の見送りと共に、波穩やかな大阪地方を、振感せしめたのは、愉快であつた。何んにも知らぬ、警察や、新聞屋共が、あはてフタメイたのは、さてこそとうなづかれる。

◇この四五日前には、中之島、中央公會堂で無産政黨組織準備會主催の講演會があつた。時候の加減か、入場者の數が少かつたのは淋しかつた。面白半分の與太連が、さかんに二階の隅から、野次り出すのがせめてもの緊張を與へる位なものだ。高橋龜吉氏が、日本資本主義の經濟的行詰りを論證し、無産階級の政權掌握を言はんとして中止、檢束を喰つたのはお氣の毒である。布施氏の練達せる演說ぶりには、さすがの野次も默つてきいてゐる。

◇岸和田の無産青年同盟も、山本君が居なくなつて少し淋しくはなつたが、古井康次郎君がなほ頑張つて運動を續けてゐる。君は自轉車の修繕業を、眞黑になつてやり乍ら、翌日の飯のことさへ考へずに熱心に同志を集めて働いてゐる。

◇和歌山では、愈々南海民衆新聞と銘打つて月三回の大型の新聞を出してゐる。藤田周一郎君が編輯長で、分裂しかけて居た和歌山地方の社會運動を纏めて一大勢力たらしめんとしてゐる。總同盟の關西同盟會でも大變、氣をもんで居るやうだ。（原茂陸）

◇世を擧げて泰平を謳ぐ新生の惠みも、糧なき者には幸も無く、悲しき心を強ひらるゝ事の如何に多きことか。世人は未だトソの醉も醒め切らぬお正月の四日の宵の町の家々は堅く戶を閉ざして居たが街はかなり賑やかであつた。元日の夜から引きつづいて每晚の街頭宣傳の演說に、今宵もかなりの集りであつた。種々雜多な人々の群ではあるが、資本家階級とも覺しい人の姿は見られなかつた。貧しい乍らもお正月の寬ろいだ氣分をやるべく、明るい街の美しい灯影をあびて、遠近の夜店から盛り場を宵の中から步るきわつて、疲れた足を止めて僕等の話を聞いてゐる、第四階級らしい人々が多かつた。

◇百人許りの群衆が二人の年若い主義者を取り卷いてゐる。時々左手の一番前方に進み出て聞いている、四十過ぎと思はれる强か醉つぱらつた土方風の男が時々半疊を入れる。がそれも演說に共鳴の余りに發する感激の聲であつた。演說が二十分許り續いた頃、突如。群衆が動くよと見えた。間髮を容れず目の前に突立つて居た男が、一二度キリキリ舞ひをしたと思ふと向ひ側の上かん屋の一尺許り開いた戶口からノメリ込んで了つた。氣が付いて見るとそこら中盥を覆しへたやうに。群衆は唯默々の中に四散した。人間の血汐だ。向ひ側の家の中から重い呻吟き聲が洩れた。もうその時には二人共群衆の後を逐つて居た。

◇翌五日、都下の新聞は小標題の記事を、憶測を加へて揭載した。或るものは進め社同人の演說を聞いて殺意を決したと云つた。或るものは艷歌師の歌を聞いて居て殺されたと報じた。併し殺した男は貧窮した勞働者であり、殺された方はめし屋の主人であつた。犯行の現場には唯一つ餅の入つた蕊薔袋が遺棄してあつた。

◇その翌晩も翌晩も矢張り同じ場所に立つて演說をした。殺人事件は日が立つに從つて眞相が、歷然として。市井の一窮民が、やつと生命の糧たる一片の餅にあり就いた、めし屋のガス火で燒かうとして、亭主からガス代を取られたのを恨らんだのが原因であつたとか。肥滿したる肉は裂かれて鮮血はほとばしり出でた。されど、嗟々飢えたる腹は終ひに充たされなかつたのだ。

◇大阪進め社は每晚街頭の宣傳を續けると共に、一方同志の親交を圖り、共々に研究したり、話し合つて見るために、一月十七日の夜初めて市內の讀者の坐談會を開いた。何分最初の事であつたから十人許りの淋しい會合ではあつたが打ち解けた同志の暖かい集りであつた。此の會合が土曜日であつたために、土曜會と名づけて每月續行することに決めた。凡べては土に根を下ろして堅實な生長をなして行くのだ。行く行く土曜會を大きな研究機關として育てたい心組みだ。

土曜會に就いての問合せ等は、大阪進め社內、原茂隆、樋口貝德兩人の中どちらにても可。

當日の重なる出席者左の如し。

田中私雄　小林純　矢勝翠浪

宮本純一　清水義一　金子大。

（樋口貝德）

●

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會主義問答

A——甲山吉三郎
B——高畠素之

A——國家は搾取維持の機關であるといふ、所謂マルクス主義の立場からすれば、プロレタリアが政權を取つた後には搾取がなくなるのであるから、プロレタリア國家といふ概念は成立し得なくなると、石川準十郎氏は申されましたが、プロレタリア把權の後にも尙從來のブルヂオアに對して搾取が行はれる筈ですから、此意味に於てプロレタリア國家は矛盾でないと考へられますが、如何でせう。

B——あなたは搾取（エキスプロイテーション）と收奪（エキスプロプリエーション）とを混同して居られるやうです。搾取とは、他人の餘剩勞働を占有することです。マルクスが國家は搾取維持の機關だといつたのは、此搾取を指すのであつて、他人から搾取した餘剩勞働の蓄積を取り上げることは、之れは搾取とはいはず、收奪（收用）といひます。而してプロレタリア把權後には、此收奪は行はれますが、搾取は廢止される筈ですから、石川君の言分には些かの矛盾もないと思ひます。

A——マルキシズムといふ言葉は、いろ〳〵の意味に用ゐられて居るやうですが、どう解釋することが一番正しいでせうか。

B——どれが一番正しいかといふことは、ちよつと申されませんが、どういふ形でいろ〳〵に用ゐられるかといふ筋みちを明かにすることは必要でせう。

先づ最も單純にいへば、マルクスの精神に則つた主義主張といふこともなりませうが問題は其「精神」といふことです。例へば之れを「同情」といふやうな意味に解して、マルクスは無產者に同情して、無產者の立場から社會改造を企てた。これがマルクスの眞精神であり、而して斯樣なマルクスの精神を以てする社會運動は總てマルキシズムの運動だとすれば、世にマルキシズムに屬せざる社會運動は餘り無いことになるでせう。

そこで此「精神」の中に、更に知識的の要素をも加へ、「學說」といふやうな意味に解釋する必要が生じて來るわけですが、さて斯樣に解釋したところで、マルクスの學說といふものは單一の要素から成るものではなく、多數要素の複合體でありますから、其複合體の全部を採るか、それとも各要素の間に輕重の差があると見て、比較的重要なるものを採り、無用又は有害と見られる分子を捨て去るかといふことで、又いろ〳〵な區別が生じて來ます。

例へばマルクス學說の要素は、經濟學的方面と、哲學的方面と社會學的方面とに大別されるといひます。ところで此三つの間には必然的、因果的の有機關係があつて全部が相合して初めてマルキシズムといふ渾一體を成すものであるから、一つを捨てゝ他を採るといふわけには行かない。全部の總合體が卽ちマルキシズムであるといふ立場からすれば階級鬪爭說（社會學）を採つても勞働價値說（經濟學）や唯物哲學を採らなければ眞正のマルキシストとはいへないことになります。或は又、各要素の間に輕重の差を立てゝ、全部を採らなくとも、マルクスに於て最も本質的と見られる學說要素だけを採れば、他は捨てゝもマルキシズムは成立するといへないことはないでせうが、此場合には如何なる要素を「本質的」と見るかが問題となつて來ます。

例へば唯物哲學も、唯物史觀も、勞働價値說も、餘剩價値說も、みな誤りであるとして、最後にただ一點、資本集中の現實的傾向を看取して、此傾向が結局社會主義の制度に到らしめること、而して此社會的推轉の上にプロレタリア階級が指導的役目を演ずることを看破した點、これがマルクス學說の最本質的な要素であると見られないこともない。此場合には、量からいへば捨てた要素の方が多いことになりますが、それでもマルキシズムの本質は採り入れたことになり、其意味に於いてマルキシズムを認めたものをいひ得るでせう。いづれにしても、一概には定められない問題です。

A——獨裁主義と議會主義は矛盾しますか。

B——獨裁主義とはどういふ事ですか。まさか單獨の一個人が支配するといふ意味ではないでせう。階級專制といふことではないでせうか。それならば無論、議會主義と矛盾しません。矛盾しないどころか、議會主義も亦、獨裁主義の一形態だと云ひ得るであらうと思ひます。プロレタリアが議會で多數を制して、政權を把握し、プロレタリアの立場から勝手なことをすれば、それが卽ち獨裁主義ではないですか。一頃ろ、政友會が絕對多數を占めてゐた時分、よく政友會の「橫暴」といふ聲が聞えました。これは政權を獨占してゐる政友會が勝手なことをしたからであつて、要するに政友會は獨裁を行つてゐたのです。プロレタリヤ黨が多數を制した場合にも同樣でせう。勿論、プロレタリアの獨裁は他の道程からも生じ得るでせうが、議會主義は獨裁主義と反對するものだとして、兩者を對立させることは當を得た見解とは申されません。

A——プロレタリアは現存國家に對して如何なる態度を採るべきでせうか。

B——プロレタリアは國家を肯定して、これを維持し發展せしめることに努めなければなりません。現存國家はブルヂオア國家であるからプロレタリアの立場から破壞すべしなどと主張する人々もありますが、國家そのものにブルヂオア國家もプロレタリア國家もありません。日本の現存國家はブルヂオア國家であるとして之れを破壞してしまへば、日本の國家はそれでつぶれてしまひます。ただ現存國家の權力がブルヂオア其他の反プロレタリア的階級によつて利用されてゐることは事實ですから、此權力利用の關係は飽まで否定してかからなければなりま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

せん。

然しそれは現存の國家そのものを否定することとは違ひます。國家は出來得る限り雄大でなければなりません。國家の問題は、社會主義の問題よりも原始的にして廣範圍のものでありますが、假りに社會主義の立脚から考へても、國家を前提せずして社會主義の現實的實現を考へることは不可能です更に、現世界を通じて國家對立の事實は如何ともすることが出來ず國家が微力であり薄弱であれば、非凡なる天才か何かでない限り、個々人も亦それだけ微弱のものとされてしまひます。日本プロレタリアの社會主義は、日本プロレタリアの發意に依り、日本國家の基礎上に實現されるものでなくてはなりません。

所謂名流婦人の經濟觀を評す

權藤誠子

七草の朝から、東京日々新聞に「婦人の見た經濟問題」といふ、標題で毎日名流婦人の論說が連載されてゐる。其論旨でなく、其御婦人方が、何等かの意味で現在の代表的な方々であるから、無名の無產婦人である私が自分の勉强のために批評をさせて頂くのも全く無意味なことではないと思ふ。

七日から今日（十五日）までに「日本式に働き產見制限も必要」と欲する、鳩山春子女史「產業組織の改善を望む」市川房枝女史「心得ねばならない痛切な經濟問題」山田わか女史のお三方のが出たあとから又數々の方の御名論が出るであろうが、もう締切の日もきれたからこゝまで、一トキリとする。

今日この一般的不景氣が何に因してゐるかと云ふ事について、この人々はどう考へて居られるかまづ鳩山老刀自のを見る。

老刀自は、原因についてはあまり云つて居られない、唯「不景氣でありながらなほ物價騰貴に惱まされるのは、品物が少いから」だといふだけである。市川女史は、それを一自然の富源に乏しく、產業に必要な材料の多くは外國に仰ぎ、われ等の常食とする米さへ不足を告げてゐる上に年々人口が增加すれば、行き詰るのは當然であると云つて居られる。確にそれは一大要因をなすものにちがひないしかし、それを直接原因と見るのは首肯し難い。富源の乏しいことは、こゝ數年の問題ではない、長い問題である。それを以てこの急速に來た不景氣の唯一の原因と見るのはもの足りない、更に山田女史のを見る、バイロンのウオーターールーを引用した襤褸飾の冒頭をかゝげた論文で、甚だ詩的であつて、この殺風景な不景氣の原因まで、大震災といふ一語に詩化されてゐる。しかし、すべては詩ではなかつた。もう大震災のよほど前から、不景氣は來かゝつてゐた、大震災は、それをより急速に、より深刻にしただけである。「大震災々々々」といふ悽慘な叫び聲はいつの間にか不景氣々々々といふ悲痛な叫び聲に變つた」と云はれてゐるが、其不景氣の聲は、もうそれより一年の餘も前から、私ども耳には響いて居た。女史はあまりに多く大震災に眩惑されてゐられるやうである。

マルクスは、產業の危機に對して、原理的に次のやうな解說をしてゐる。「近代的大工業は其特殊の循環運動をなすもので、この運動は一八七三年迄は約十年每に一循した。即ち、初めは尋常の商況、次は急激な活氣を加へた大好況引續いて生產の大擴張て、其結果は恐慌となり次に慢性的な大沈滯を經て再び景氣を恢復する。斯うした循環は資本主義が命脈を保つ間は幾度も繰返すものである。これを日本の今日の場合にあてはめて考へると、世界大戰の影響による好景氣のあと、必然的な生產過剩の不景氣が、大正十一年頃には既に來て居たのである。それがかの突如とした大天災のため、國內的には、むしろ緩和された。けれとも、唯さへ自然の富源に乏しい日本は、これによつて又急激に國力の衰耗を來して對外的に、爲替相場の激落となつたのである。不景氣に惱まされながら、尚且つ物價の下落を見ないのは、此處に因するのであると思ふ。私はこの見地からかのお三人の「不景氣」についての對策を評して見たいと思ふ。

先づ鳩山刀自のを瞥見する。刀自は行政整理の結果、民間諸會社の馘首による失職者の上に多大の同情を以て、それに因する罪惡すら當然のことゝ言つてをられるそして政府に對して勤儉奬勵と云ふやうな消極的手段に力を入れるよりは、貿易振興策を講じてほしいと、それはとにかくに當を得た詞である其情ある詞を出した同じ口から、刀自は思ひがけない殘忍な詞を出して居られる曰く「勞働者連が、就業時間の短縮や、賃銀增加を要求する傾向が、非常に多いやうであるが力あり技術を持つた外國人に比して、體格に於ても、既に劣つてゐる日本人は、おなじ仕事をなすにも長時間を費す」からもつと勞銀を引下げて、もつと長時間の勞働を要求して居られる「勞銀は、勞働者自身及其家族を生活させ其子孫を繁殖させるに必要な生活資料によつて、決定される」と云ふ意味を、マルクスはもとより、リカードも云つてゐる。現今の勞銀は果してそれに相當するものであらうか「失業して粥をすゝるより」と、刀自の仰せであるが、今の勞働者は働いてゐても人並な食物はとれないのである。失業すればもとより、即日から飢餓が迫つて來ることを、永年、結構な生活になれてゐる老刀自は、お解りにならないと見える。ロクなものも食へなくて、これより以上長い時間を働かされたら「外國人より體格の劣つてゐる日本人の勞働者は死より外に道はないのである。さらでだに勞働者の體格は惡くなつて來てゐる。死亡率は次第に多くなつて來てゐるではないか！次に市川女史のを見る、今日

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の不景氣を、一つに「自然の富源の缺乏」と見なした女史は其對策として「あるだけの富源の開發、産業組織の改善、大資本主義、生活必需品の國家經營、分配法を以てせられた。女史の說はよほど、我々に近づいて來てゐるが、こゝまで考へた女史にして、何故其說を遠く廣くして、生産機關の共有と統することが出來ないであらうか？生産機關の共有を中心とする經濟組織の改革まで進んで下さらないことが、私どもにとつては遺憾である。

國民の大多數を占むる無産大衆は、既に必要以外の欲望などを夢みる餘地を持たぬのである「個人的欲望を捨てゝこの難關を切りぬける覺悟」は、それはブルジョア社會にすゝめるに適當な詞である。ましてケレンの多、奢侈税や、國産獎勵は「質」が與るべき性質のものでは初めからないのである。

「要するに私の云はうとする處を一言に約するなら、今日の經濟的危機にあつては、如何なる經濟政策よりも、經濟的施設よりも、德操といふ精神的通貨を緊縮するのが必要である、同時に一方に於ては精神的資本をもつて物資を生産しなければならない秋である」と、これが山田わか女史の、前後五回に渡つての華やかに飾られた論文の要旨である。精神的資本と云ふのは「何々は高い皆買ふな」と云ひ「よし買はない」といふ精神的一致であるさうだ。しかしこれは甚だ滑稽な議論ではあるまいか？

「物價問題の需要と供給の原則に支配されて居る」ことは云ふまでもない、そして物價は賣手と買手の競爭によつて、ある一點に落ちつくものである。そして山田女史の親切な御忠告がないまでも、誰れも一錢でも安いと思ふものを買はうとするのは事實である。しかし、どうしても無くてならぬものは、どうすればよいか。贅澤してゐるものは奢侈品でなく、むしろ日常の生活必需品なのである、そして、現今國民の大多數は、奢侈品などは思ひもよらない、唯無くてならぬ物にさへ不自由をしてゐるではないか？更に私は一步を讓つて山田女史の仰せのそれを輸入品と見て見る、そして輸入品には多大の必要品がある、元來日本が、どうしても自給自足が出來ないほど物質に乏しい國であることは、如何になんでも御存じの事と思ふ産業に必要な物質に就いてにしても樣にしても大抵は輸入品である、「高い皆買ふな」「よし買はない」で一致したら、産業は、立どころに止めなければならない、仰せの精神的資本は、斯うした滑稽な結果を生産する。

稍近いと思はせる方もないではないが、要するにお三人はお三人やはりブルジョア的見解から一步も出られない方々である、自分の近い周圍だけを見て、國民全體を奢侈と云ふのは、あまり的が外れてゐる、又自分と同じ有閑階級の人の行動から推して勞働者にもつと働け、高いものを望むなどといふのは、無智を通り越して殘酷である。

私は、マルクスの說によつてこの一般的不景氣を解釋する、それは地理的關係に於て、幾分枝葉の問題に例外な點もないではないが、根本は說として證明されるのである、であるから、この對策としても、彼れの學說によらなければならぬことは言を俟たない、其處にこそ、この經濟的危機に處する、根本的の對策があると思ふ。

近世社會主義史（五）

—初期マルクス主義運動—

春田正

◆マルクス（續き）

マルクスに依れば此の社會的鬪爭は自然に政治鬪爭となつて現はれる。而して掠奪者を掠奪することはプロレタリアの歷史的使命である。プロレタリアが一度政治的支配權を掌握するに至るや、之を利用して總ての生産要具を有産者からもぎとり、之を國家の手に歸せしめる。資本主義的生産方法は此處で終りを告げるのである。そして資本主義から社會主義への過度期に現はれるのが所謂無産階級の獨裁である、斯くて階級對立の上に働いて居た從來の社會は國家を必要としたが、階級對立がなく隨つて階級抑壓及搾取の必要がなくなるにつれ國家は廢棄され自身不要となり、自然に死滅する。而して政府はその後は單に産業過程の統制機關となる。エンゲルスに依れば此の時より人類は必然の王國から自由の王國へと躍り込むのである。

マルクス以後の社會主義は概ねマルクスの直系がその修正である

彼の社會主義理論は一生を通じて二つの實際的運動に表現され、その運動は近代社會運動に重大なる影響を與へた。その一は國際社會主義であり、他はドイツ社會民主主義運動である。

◆インターナショナル

勞働問題が國際的になつたといふことは歷史上必然の成行である文明の光りがニール、ヨーフラトの岸を放れて地中海を渡つて以來、事々物々は時と共に國際的傾向を示して來た。一國に起つた智の光りは忽ち國境を越えて他に及ぼす。科學宗教藝術皆然りである而して產業方面に於ても、此の傾向は歷然たるものがある。今や各國の資本家はお互にその國境を越えて市場を奪ひ合ひ顧客を呼んでその相互間の競爭を激成して居る然し乍ら資本家は彼等の利害の關聯になると常に敏感な思慮を忘れない。從つて彼等の間の競爭から來る不利益な結果及その國際的不利に對しては陰々暗々裡に或は公然と手を取り合つて防禦を試みる斯う云ふ財閥の國際化の必要の中にあつて、獨り勞働者のみが彼等の國際的利害を正さうとはしなかつたであらうか。否

勞働者の國際的組織に對する努力は主に反動政府のために自國から追放された人々によつてなされた。

一八三六年パリに於けるドイツ亡命者の一團は、共產主義の下に

「正義の同盟」と叫ぶ秘密結社を作つた。一八三九年彼等はパリの一揆に關聯してロンドンへ移つた。此處で彼等は北ヨーロッパの他の國々の亡命者等と會し、其の同盟は自然に國際的性質を帶びて來始めたと同時に彼等の思想方面に於ても變化を見るに至つた。即ち彼等は彼等の眞の任務は陰謀や一時的の革命の煽動ではなくて宣傳にあることを悟り、プロレタリアの眞の解放は究極的な「總ての人は兄弟である」といふやうな言を振り翳して居る丈では駄目であつて、彼等の現實社會組織を見込んでその歷史の科學的洞察を待つて始めて達せられるものであることに氣が注いた。

一八四八年その同盟はマルクス、エンゲルスの加入を得てロンドンで會議を開いた。その結果同盟は組織を更め名稱も「共産同盟」とした。其の綱領は同年マルクスの手によつて「共産黨宣言」として公にされた。

此の宣言文は印刷に附しては僅々四十頁に充たざる短文ではあるがこの間に說かれてある大文字は言々句々現資本主義魔術城の不撓を衝いて遺憾なきものである。而して「全社會の歷史は階級鬪爭の歷史であつた」といふのが此の宣言の中で最も強調せられて居る所である。「今や全人類社會は二つの對陣に分れつゝある。一はブルジョア他はプロレタリアである」而も此階級鬪爭及壓迫關係から全社會を救ひ出すのは全プロレタリアの任務である。最後に彼は次の力強い文句で其の宣言を結んで居る。「彼等の(プロレタリアの)目的は、從來の社會制度を强力的に轉覆することによつてのみ達せられる。……萬國のプロレタリア團結せよ」

一八四八年西ヨーロッパ諸國に革命が起つたためこの同盟は少からず打擊を蒙り、一八五二年一先づ此の運動に終りを告げた。然し間もなく、も少し廣い而も價値の多い運動として現はれて來た。

一八六二年國際博覽會がロンドンで開催された折、フランスの勞働者は此の博覽會を訪ひ、英國の勞働者と親しくなつた。其の結果一八六四年各國の勞働者代表はロンドンのマルチン、ホールで會合し、國際勞働者協會が設立されるに至つた。マルクスも招待を受けドイツ勞働者代表としてその發會式に臨んだ。此の發會式で發會の辭及定款起草のため五十人の委員が選擧せられたが、發會の辭も定款も共にマルクス起草のものが採用された。此の發會の辭は各國の體裁を異にする凡ての勞働運動、即ちフランスのプルードン一派及產業組合主義者、英國に於ける勞働組合、伊太利に於ける愛國者マッチニ一派、ドイツに於けるラッサール派を一傘の下に包括せんとしたものであり、而もその目的を遂し得て居る。その發會の辭は如何にして勞働者階級が資本主義のために困窮に陥つたかを理解し易く叙述し、勞働者の共同利害を摘發し、その結合の要を强調し、インターナショナル(國際社會主義)が此の結果を實際に効果あらしめるに如何に必要であるかを述べて居る。又定款に曰く「國際勞働者協會に屬する團體及個人は眞理、正義、道德を規約としてお互に守り、總ての人に色、信仰、國民性の區別を立てゝはいけない」と。

斯くして國際勞働者協會の組合の提携本部をロンドンに置くことにした。併し乍ら提携本部は決して命令府ではない。各國の勞働運動に干涉せんが爲に設けられたのではなくその連絡、提携を本旨として設けられたものである。その第一回の會議は一八六六年ジエネバで開かれ、マルクスの發會の辭及定款は其の儘協會の基礎として採用され、會議は每年各地で開かれることになつた。斯くしてインターナショナルは世界の驚異を喚起した。イギリス、イタリー、フランス、ドイツ等の多くの勞働者は之に加はり、ヨーロッパ各國の新聞雜誌等は多く之に注目し出した。併し斯くの如く世界に驚異と刺戟を與へたのに比し、インターナショナルは其の勢力、行爲の手段及特に財政的基礎が甚だ貧弱であつた。そのためイギリスのトレード、ユニオン(職工組合)が離れた頃よりインターナショナルは段々衰境に向ふに至つた。けれどもインターナショナルにとつて最も悪い事件はその內部から持ち上つた。一八七二年ヘーグ會議に於て、バクーニンの無政府主義者の一派とマルクス派との爭ひは極點に達した。此の爭ひは革命主義と進化主義との爭ひである。バークニン一派は革命は起し得るものであるから之を起すべしと論じ、マルクス派は革命を只經濟發展の必然的經路中に現はれるものであると信じて動かなかつた。斯くてバクニーン派はインターナショナルから除名された。同時にインターナショナルの提携本部をニューヨークへ移した。次いで一八七三年解散となつた。此の時迄を一般に第一インターナショナルと呼ばれてゐる。

インターナショナルの出現は世界歷史上一つの驚異であつて、而も勞働運動にとつては特筆せらるべき努力であつた。何事によらず一つの重大な運動を起すに當つて最も大切なことは其の第一歩を踏み出すことである。而もインターナショナルは第一歩を勇敢に踏み出した。時機が熟さないため一時解散をしたが併しそれは死滅したのではない。否、否、一つの失敗は常に教訓と啓發とを後に示す。インターナショナルは間もなく再びその道を見出した。併しそれは後章に譲ることにしよう。

ドイツ社會民主主義

元來ドイツの社會運動は著しく政治的性質を帶びて居て、一般に革命的色彩を採ることを其の特徴とする。

ドイツの社會運動の始まつたのは前に述べた通りラッサールが總ドイツ勞働者組合を建設した日からである。ラッサールが一發の彈丸の前に殪れた時、總ドイツ勞働組合の組合員は僅か四千六百十名に過ぎなかつた。ラッサールの意志と思想とを繼いでラッサールの次に組合長となつたのはベッケルであつて彼は智識よりもそのたゆまない勢力を以て事に當つた、併し此の派の最も有能の士はシュヴァイツエルであつた。

ラッサールの死後勞働運動は只微弱なる小同盟的工者の分裂に過ぎなかつた。對人的な小徒黨が政黨に代つた。斯の如き中からドイ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ツの勞働運動に新しい生氣を齎し新運動が起つた。

ラッサールの組合が出來て間もなく、進歩黨と提携する勞働組合が出來、ラッサールに反對し來つた。併しその組合は間もなく方向を民主主義に向け又民主主義を通つて社會主義へと歩みを進めた。此の派を此の方面へ導いたのはウイルヘルム、リープクネヒト及アウグスト、ベーベルである。彼等はマルクスの精神を受け繼いでドイツに新しい勞働運動を起さうと企てた。斯くて一八六九年アイゼンナツハに於いて社會民主的勞働黨がドイツに生れた。而して同黨はインターナショナルに加入することを決議し同年代表者をバーゼルのインターナショナルの會議に送つた。

今やドイツには二つの社會民主々義の團體が現はれた。一は主に、プロミアに組合員を有するラッサール派組合、他はサクソニー及南ドイツに勢力を持つアイゼンナツハ派である。而して普選が布かれるや兩派は共に代表者を議會に送つた此處で彼等は明かに對立を示したシュヴァイツエルとリープクネヒトとの主張は事毎に衝突した然し間もなくシュヴァイツエルは勞働者組合を去らなければならなくなつたシュヴァイツエルが去つて間もなくラッサール派及アイゼンナツハ派の間には舊怨を去つて共同の目的に邁進すべく合同が企てられた。

一八七五年兩派はゴータに會合し、遂に合併するに至り、名をドイツ社會勞働黨とした。その時の綱領は兩派の妥協の下になり立つたもので後にエルフルト綱領が現はれる迄重大なものであつた。兩派の合併はドイツの社會民主々義に著るしい發達を來した。一八七七年には此の新黨の選擧投票總數は五十萬、議員十三人を數へるに至つた。此の結果は忽ちドイツの支配階級に非常な驚愕を與へた。

益々ビスマルクの出て來る番となる。彼は今や聯邦の大業漸くなつた「我がドイツ」をおびやかす怪物を見た。それは眞紅の舌を以てドイツ帝國を甜め盡さんとしてゐる恐るべき社會民主々義である。併し乍ら彼には若年の時から一つの御得意を持つて居た。即ち彼は高壓手段を以て此の恐るべき敵を碎かうとしたのである。適々一八七八年皇帝の生命をねらふ者が二人迄現はれた。勿論此には社會主義者は何等關係しなかつたのであるがビスマルクは此を口實として、其の年反社會主義法を議會に提出し之を通過せしめ、之を以て社會主義者を壓迫した。併し一世の豪傑の智慧袋からは畢世の問題を解決すべき智慧は出なかつた。此の恐ろしい名前の法律の効果はホンの一時的に過ぎなかつた社會勞働黨の投票は一八八一年の選擧には、三十一萬二千に減つたが一八八四年には五十四萬九千、一八八七年には七十六萬三千に登り、一八九〇年には實に百四十二萬七千に達した。

一八八八年若きウイリアム二世が皇帝の位に登るや反社會主義法は段々影を薄くし、ビスマルクは辭職し、一八九〇年には同法令は撤廢せられるに至つた。此の法令が廢止せられるや社會民主黨は直にその掻き亂された陣容を整へ始めた。毎年同派の最高代表者の會議が開かれ、「前進」が其の派の中心機關雜誌として發行された。

一八九一年同黨はエルフルトの會議でゴータ綱領に代る新しい綱領を採用した。綱領中に曰く。「資本主義的搾取に對する勞働階級の鬪爭は即ち當然一つの政治鬪爭である。政治上の權利なくして勞働者が經濟的鬪爭をなし且つその經濟組織を發達せしむることは不可能である。彼等は政治的權力を其の手に收めずして生産手段を社會全體の手に移すことは出來ない。」而して社會民主黨は「新しき階級的特徴のために戰はんとするものではない。否、階級的專橫及階級其物を廢止し「男女性及家系の別なく、凡ての人に平等の權利及義務を與へんとして戰ふものである。」斯くて此の綱領はそれ以來社會民主黨の信條となつた。

多年艱難辛苦の中にあつて種々の訓練を受け忍耐、眞面目、自制等の學課を授けられ來つた社會民主主義は漸くその基礎を固むるに至つたのである。

初めはラッサールに依つて始められ次にマルクスの理論を骨子とし、ドイツの無産階級の心の中に基礎を置いて發達した社會民主主義が向後如何に發展し、如何にドイツの社會的必要に適應されるかは興味深き問題である。一八九一年以後に就ては後章で述べやう。

（未完）

一七頁より續き

年團に青年としての事業が増加した事は全會員の承知の如くである此の上澤山の事業が擴張したなれは吾々は國家義務であると云つて青年團に携はれは經濟的に苦しみ生活を保持する事が出來ない情態にあるが故に此の上澤山事業が増加したなれはついに本青年團崩解する事は必然的の運命であると考へます。其の崩解の運命に起つて居る故青年團を救濟せんが爲めに我々は、其の愛團心にもへ團長氏の意見も否定し反對を叫び數年間に亙る本青年團の缺陷を根本から改造せんが爲め内部に於て活躍したのである。それに團長氏は吾々の行動を惡意に解し我々を本團より除名せんとしたのである。私は除名を甘んじて受けようが我々を本團より除つた處で組織に缺陷がある以上本團は崩壞するは火をみるよりも明かであること丶私は深く確信するものである。然るに團長の無理解なる要求は私として悲しまざるを得ない。

如何に團長氏は青年團の代表者であるかは知らないがあまりの獨斷的行爲であることは全會員諸兄の知る處である。本青年團の規約によれは（以下數行略）團長は規約を無視し一言一句の戒告もせず評議員會の決議にもよらず團長の權限とは云ふもの丶あまりに幹部を無視した言動ではないかと考へます。又團長氏は私に好意を持つて居るものであるが青年團として除名を餘儀なくされたと語られたが若し團長氏にして私に好意があつたなれば裏面に於て私に戒告をしてほしかつたと思ひます私は青年團としての正式により此の問題の解決を團長氏に望む者である。と水野君は云はれた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會講談

或る夜の忠治

西下貞

薄墨を流したやうな雲の切れ間から、時々洩れて來る淡い弦月の光は、物淒い迄に靜まり返つた、六千石の原に冷たく照されてゐた時々、音もなく搖いで往く、薄ら寒い晩秋の夜風は、今義憤の血を五體に、熱火のやうに湧き立たせて飽なき虐げと迫害に、それに加ふるに天保七年から八年へ掛けて大凶作の爲めに、極度の飢餓と、追々迫つて來る寒さに全く生死の境に立つて、泣くに涙すら出ないやうな悲慘な狀態にある、關東八ケ國の民百姓を救ふ可く忠治一家の其の夜の決議を決行する爲めに、足を進めてゐる、忠治等三人の衿首に沁み入る。

「親分……隨分寒い風が吹きますね」

「そうよ、こう寒い風が吹き始くるやうになつちや百姓衆も氣の毒なものだ、だがな、今俺達は寒いとか暑いとかと勝手な言を云つて居られる時ぢやねい、今のやうな腐敗切つた世の中ぢやとうてい一筋には生きて往く事の出來ねい此の忠治だ、これから先は、闇になるか月夜になるか今夜がその瀬戸際だ、此の忠治の身一つが犧牲に、百姓衆が救はれるならこの忠治も共に救はれると云ふものだ」

「それは親分……親分だけじや御座んせんよ、私等だつて同じ事で御座んすからね、榮耀榮華をする奴は、榮耀榮華で通し貧乏する者は、何時まで經つても貧乏たなんて全く鼻向けのならねへ世の中で御座んすね」

ひそ／＼と語らいながら三人の歩む道は何時しか彼等の目指した六千石の原に近ついた。處々にある木立に吹きつける秋風が、大方に枯れた木の葉を、三枚五枚と吹き飛ばして往く音が、かすかにサアーサアーと聞へ、朧げに照してゐる月光に透かされて落ち往く葉の行衛がかすかに見へてゐた。

江戸の或雨傘店から桐生の或雨傘店へ、その地の大名の用立金二千兩を送ると云ふを、乾分の小天狗の八五郎に探らせたのであつた。

江戸から桐生に通ずる一筋路の六千石の原に、金を積んだ馬の鈴音の聞へるのは、その夜の明方であらうと云ふ事も確めて來た。

惡制に惡制を加へ、迫害に迫害を重ね、飽なき搾取に榮耀榮華をほしいまゝにし、猶も求めやうとする、武士階級の横暴に、只さへ憤怒と呪咀を以て湧き立たせてゐる、忠治の心は、今その金が大名の用立金だと聞いて、矢も楯もたまらない程に、武士階級に對する憤激と、民百姓に對する義憤が、からまつて熱火のやうに燃へ揚がつた。

三人が、六千石の原に着いたは未だ明方までに餘程間のある頃だつた。

皆一樣に二千兩の金が、村の人々に別け與へられる時の喜びをお互に心に波打たせながら、邉りの草叢に腰を降ろしてやがて聞へて來る鈴の音を待つのであつた。

以前として、原は靜寂に閉されてゐた。

「未だ明方までは、間が御座んすね」

「そうだ、こう寒つてゐては時も判らない」

「だが親分……夜の明るまでには村に歸らなければ、どぢを踏みおやいますからね……早く來ねへかな……待たれる者より待つ者の痛らさとは此の事かな」

「そう此方でバタついて見たつて爲方がないぢやないか、別に始めから此處で待ち合すと打合した譯でもあるまいし、まあ落着いて待つてろよ」

「それもそうだな——だが矢張り待遠しいな」

生一本に單純な氣持ちの。清水の嚴鐵は、子供のやうにその時の來るのを待ちあくんでぢれ出した

時々雲間から洩れて來る月もやゝ西に、片向き始め、時は一時、半時と近ついて來た。

暗愁に閉されてゐる、關東八ケ國の民百姓の氣持ちそのまゝのやうな、薄黑い雲は、南へ南へと流されて往く。

時は流れた。

只さへ餘り氣持ちの良くない、原の一本路を僅かに馬の背を便りに、歩みを續けて來る西用飛脚の胸にも、不安と、騷きはぴつたりと食い着いたひるのやうに離れなかつた。

殊更に一年越しの大饑饉の爲めに、荒み切つた人心は、その頃の旅する人々に可成りの恐怖を與へた。

それは、壓制者の虐政と、虐げる者の常に持つ恐怖である。

「どうやら明方にも近くなつたらしい……おい嚴鐵……手前此の先まで行つて探て來て吳れ」

「へい……よう御座んす」

今迄で、待ちあぐんでゐた嚴鐵は、宙を飛ぶやうに走り去つてしまつた。

「どうも奴は氣が早くて困つたも

詩一篇

銀座

騷音響
流れる
美美
紅の跳出し
眼眼眼
落ちた……太陽
光線……青　黄　赤
十字街……闇……闇……乞食
闇から流れる……
三味の音しわ枯れた歌聲
響せ叫べ
ハンマーの響き
革命の歌
騷音響
流れる
醜醜
紅の跳出し
眼眼眼
跳飛せ

—貞—

のだ……おう……八五郎……手前を要意をしろよ……」

「へい……よう御座んす」

暗に立つた二人の姿は、丈なす程に老い茂つた萱の中に消へた。

今迄で時々雲に切れ間が出來洩れてゐた月も、すつかり閉してしまつた雲に影さへ見えなくなつてしまつて原一面は、眞の闇然に化してしまつた。

やゝ暫らくしてその闇に閉されたた原を宙を飛ぶやうに走つて來て二人の姿の消えた萱の中に隠を隠したものがあつた　それは忠次の云附で飛脚の來るのを探に行つた鐵藏であつた。

程なくして。原の彼方にかすかにゆらめく提灯の灯は、段々と近づいて來た、直さらに馬の背に兩側に別けて積まれた二個の千兩箱は、馬の一歩一歩に鞍にすれる音をギシリ〳〵たてゝゐる。

近づいて來た。

静まり返つてゐる、原に馬の沓音と、首につるされた鈴の音が調子よく響ひて來る。

今迄で萱の中から聞へてゐた。談し聲もその鈴音が近づいて來ると。ぴつたり止まつた。

飛脚は今自分の行手に大きな罪惡所の横たはつてゐる事は知らう由もなかつた。荷物の重さに、そして夜道なく引かれて行く馬は、餘程の疲勞を覺へたのか、歩みが鈍くなつてゐた。

「速く歩かねえか……慳畜生……」

はいよ〳〵」

と、馬を勇めながら原の中程に差しかゝつた。

萱の茂みは、突如としてざわついたかと見る間に、飛脚の行手に快晴の星空に流れる水星の如くに忠次の持つ小松五郎兼光の双光はひらめいた。

闇夜の野路を唯一つの頼みとして灯されてゐた、小田原提灯は、ひらめいた双光と倶に眞二つに切つて落された。

「あつ……」

と、突然のふい打を食つて倒れやうとする飛脚を

「おつと往ない……何もさう驚く事はない……お前さんの命までを貰はふとは云はないから……」

奪ふものは、奪つても人の命までとらうとしなかつ忠次は、そう云つて飛脚を抱き止めた。

餘りに突然の事に口を利く事さへ出來ない程に、戰いてゐる飛脚は、そのまゝ其處に平伏ししてしまつた。忠治の心には、飛脚に對して限りなく濟まないと云ふ情はあふれてゐた、けれ共、その飛脚一人をそうする事に依つて幾百數千の人を救ふ事が出來るのだと云ふ一つの大きな喜びがある事は、その小さな氣持ちを完全に打消す事が出來たのであつた。

邊りは、以前として靜けさと、闇然に閉されてゐる。

忠治は再び口を切つた。

「俺は、今此處では名を云ふ事は出來ない……だが今饑餓と追々迫つて來る寒さに攻められ、惡逆非道な上役人の爲めに苦しめられてゐる上州一圓の民百姓に代つて、馬の背の二千兩を借りに來た者である事は云つて置こう……決してお前さんの命を奪はうとは云はないから、此の二千兩を暫時借して貰ひたいのだ……」

餘りのあつけなさに、清水の鐵藏に小天狗の八五郎は唯呆然として、その成行を見てゐるのみであつた。

「どうだい……理屈はあるまいな……理屈があつたつて借りて往くものは借りて往くのだから……」

「何卒……命が助かる事なら御自由に……」

「そう出られちや濟まない氣にもなるが、……兎に角借りて往こう……」

可成りに永い晩秋の夜も、明け方までには間もなくなつて來た。夜の明ける迄には國定村に歸らなければならない三人は、馬の背にした、二個の千兩箱を手早く降ろした、そしてそれを鐵藏と、八五郎に擔がせた。

「夜の明けない裡に家に歸るやうに急いで呉れ……」

「へい……それぢや親分一足先に行ますま」

「やい……八五郎……何をしてゐやがるのだ……早く來ねえか」

「何を云つてゐやがるのだい……手前勝手に先に行つてろい」

「文句を云はないで早くしろい……」

二人は、夜の明けない裡に歸り着かなければ折角是れまでやつて來た努力も、役立たない事を良く知つてゐた。

二人に、忠治が云ふがまゝに元來た道を急いで國定村へ歸つて行つた、忠治は、それを見送りながら一度強く打消す事の出來た飛脚に對する心持ちが再び湧き歸つた

「そうだ彼も矢張り同じ壓制者だ虐げられてゐる者だ、此まゝに彼を打捨て置く事は、今自分が爲やうとする總てとに大きな矛盾を其處に見出さなければならない。」

そうした事が、忠治持前の義侠心とからまつて動き出した。

然し今の場合忠治の名を明す事も出來ず、如何にすべきかを考へた結果、桐生の兩替店へ宛て一通の手紙を書いたのであつた。

「今借た金の受取た、お前さんも早く是れを持つて行きなさい」

「此んなものを頂きませんでも……」

「なに……さうでない、お前さんの迷惑にならねえやうに之を持つて行きねえ……」

「さようで御座いますか、ぢや頂いて行きませう」

「それぢや濟まなかつたな……氣を附けて行きねえよ」

「へえ……有難う御座います」

飛脚は、漸く這々の體で其處を立去つてしまつた。忠治は跡をぼんやりとも視ながら、

「あの飛脚には濟まない事をした……だが多數に一人は代へられねえからな……爲方がねえ……夜の明けねえ裡に歸る事に爲やう……」

そう私語した。

一仕切サアーと、野面を撫で吹き着ける夜明の風は、二筋三筋ほつれた忠治の、鬢のほつれ髪を吹き立てゝ過ぎて往く。

「あゝ……今の民百姓の總ては闇に包まれてゐる……明るくなるのは何時頃かな」

…………

夜は、全く明け放たれた。そして又世も明るみに近着いて往つた

（續く）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊紹介

山崎博士著

「山崎伯爵創作集」

四六版二百二十頁　平民大學發行定價金一圓也の小冊子ではあるが、地震憲兵火事巡査、テロリにケロリ、チットにタット、露國討つべし日本べからず、偉大なる低能、等大小十數篇の創作が容れてある。

内容には、巡査と火事憲兵と震災、流言蜚語の震源地と責任者、地震と社會主義との關係、大和魂と虐殺の聯、朝鮮人と支那人、龜戸事件と甘粕事件の眞相、大杉事件と福田大將、露國討伐論と大庭柯公君虐殺の眞相、低能辯護士の決論見本と騒擾判決の標本、鮮人塚と戸祭宗一地藏、日本社會主義同盟の抗議書、社會葬と赤化防止被告心理と裁判官心理、裁判と法律と警察と軍隊との正體、自傳他傳正傳戯傳、等雜多數百篇が縦横無盡前後左右東西南北に織込まれて居る。

併し何と云つても著者會心の作と云へば、地震憲兵火事巡査、露國討つべし日本べからず、チットにタット、テロリにケロリであらふが、著者得意の文章は朝鮮問題問答集に露國討伐論、其れに低能辯護士と判事を味噌に惡口した處であらう。

著者の文は世評に未だ定評はないが、愈々肝心要の處となれば遂に龍頭蛇尾スルリ／＼と蛇の如く脱兎の如く逃げて仕舞つて張合がない。尤も之れが其の發禁を免れて本書の世に出た所以であらふ。

著者は本書到る處で小兒病患者の如く頻りに『革命來』『革命の宣言』を説いてるが、よく／＼煎じ詰めれば著者は全く『動揺常なき確固不抜の感情』に立つ一個の人道主義者たるに過ぎない。否一打罷り違へば、何時何ん時でも忽ち國士にても志士にてもなれる危険人物である。

何は兎もあれ、論文創作集といふレコード破りの珍書、玉石同架支離滅裂矛盾撞着の譏は免れざるも、一旦巻を手にしたが最期、何人と雖も讀んで仕舞はずには本を離されず初版既に拾版を賣る著者が全責任を負ふて其眞價を保證するから、讀者は安心して一本を購求されたい。（山崎今朝彌）

「進め」のメダル意匠を募る

「進め」多年の計劃であつた「進め」のメダルを滿二過年迎へて、その計劃を實現する。

無産階級の戰鬪氣分を遺感なく表現したものがほしい。

大きさは、直徑三分位のもの。

應募締切　二月二十日。

會計規約

會計係では事務の都合上右の如く規定を設けてありますから左様御承知下さい。

一、雜誌に關する問合せ又は注文等は必ず會計係宛になす事
二、住所氏名は明瞭に書く事
三、見本希望の向は切手十錢を封入して申込む事
四、誌代は成可く六ケ月分以上前納する事
五、集金郵便、代金引換郵便等にての送本は斷る
六、誌代切れ或は誌代前納なき場合は一切送本せざる事
七、誌代拂込は出來得る限り振替を利用し、振替の懸き場合は爲替又は切手を用ふ事（振替の通信欄には用件を明記する事）
八、振替にて拂込む場合は振替口座東京六九八五三進め社本部へ、尚一切の用件は東京本部宛にする事

民衆運動社の既刊書目

◇マックスベーアー著
フエビアン協會の歴史と其の組織及綱領
（六版）
現今、日本社會運動を席捲しつゝある、新思想を根本的歴史的に紹介して遺憾なし。フエビアニズム研究者にはこれ程の最好書はあるまいと思ふ。（税共十七錢）

◇**レーニン會見記**
（十六版）
赤露革命の大立者レーニンと吉田一の會見記でレーニンの風貌を宛然、眼前に浮べるようである、此の會見記は歴史的文献と云つても過言ではあるまい。
（税共十二錢）

◇**極東大會に參加して**
（八版）
これは、吉田君が、人類最初の社會主義國家へ日本勞働者代表として、決死的に入露した紀行記と叙實記これに最近の片山潜氏及著者の鐵工時代の寫眞が入つて赤表紙の氣持のよい雜誌である。（税共十七錢）

◇高尾平兵衛
久板卯之助
追憶全集
（最近刊）
一代の闘士、高尾平兵衛と、宛然、神の如き人格者、久板卯之助の兩君をば、現今、墮落せる、社會運動界に反省を與へんとして刊行したる、稀有の文集、遺稿集感想集追憶集てある、執筆者は現在著名の社會運動家が筆を揃へて書いてある。（税共三十二錢）

◇**ペトログラード解散式とモスクワ大會**
（近刊）
今や此の間のロシアを忘れイギリスに走らんとする際、是等、浮實的思想家をば、離れて獨り自からの歩む道を進んで行く、吉田君の近業である、ロシア革命の眞相知らんとする者は、是非共、讀まねばならぬ本である。（税共二十二錢）

東京府下駒澤字深澤七〇三
民衆運動社

南海民衆新聞

一部　五錢

發行所　南海民衆新聞社
和歌山縣海草郡和歌浦町六七番丸

募集

目下失業者の數は、日を追ふて増加しつゝある、都會に在つて職を失つた者の爲めに、「無產階級出版書共同販賣所街頭社」を設けて。街頭宣傳と街頭販賣をやる。來りて街頭に起て！一月三圓位になると思ふ。

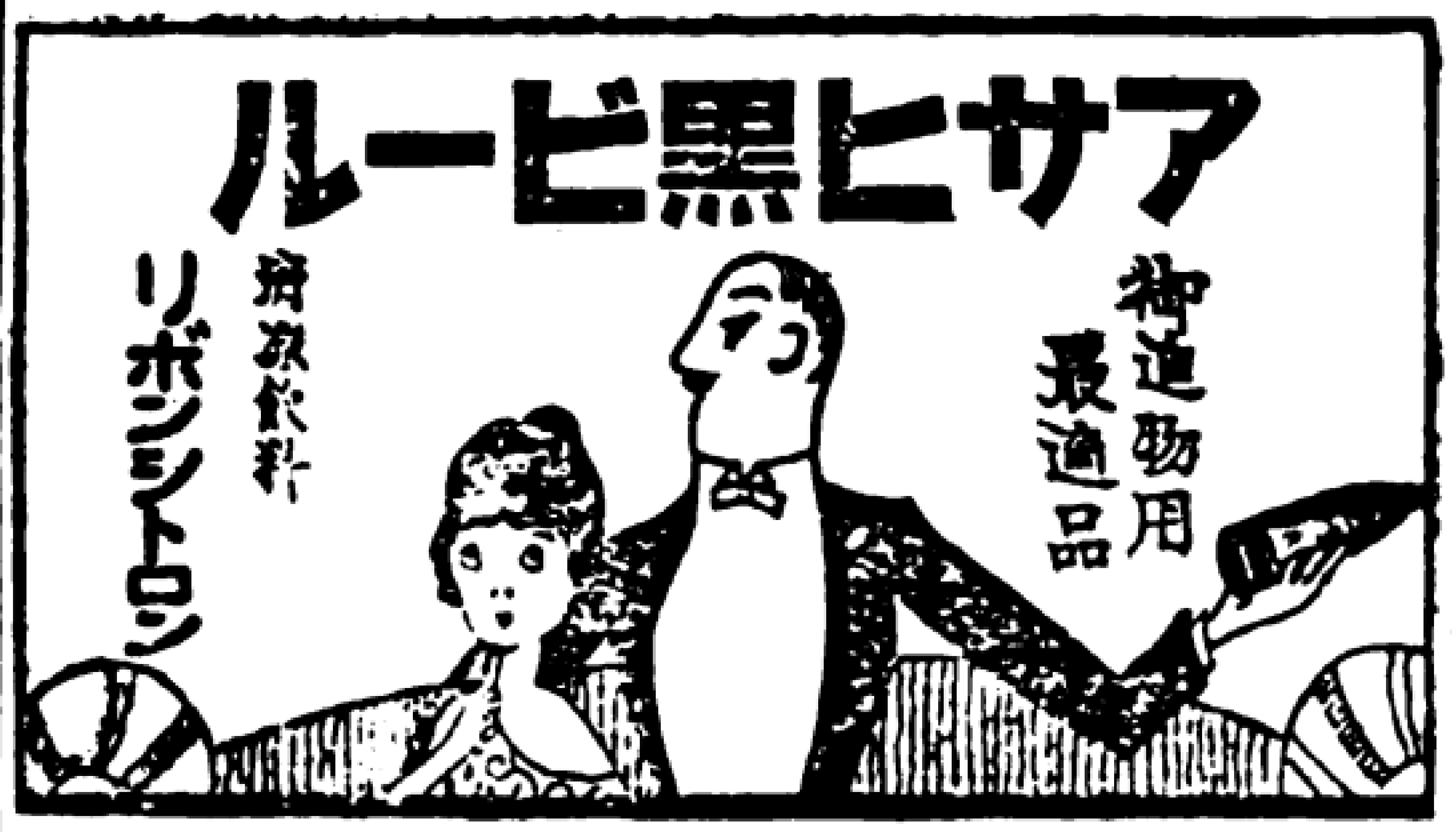
募集人員　十名

無產階級雜誌――
パンフレット――
リーフレット
社會主義圖書
共同販賣　街頭社

大阪市外鷺洲町海老江一〇七七

金銀
白金
東京市神田區松田町
徳力本店

仁丹



婦人良薬
喜谷實母散
産前、産後、血の道、引風、冷込等に特効有
▲全國到る處に販賣す
本舗
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎右衛門
電話京橋五五番 五六番

木藤精一郎個人雜誌
特種雜誌
骨警評論
二月號
一部十錢
發行所
大阪市北區小松原町
キトウ社
振替大阪三四七四六番

柔道
擊劍
教授
日新會道場
會長　大沼晴直
本部
東京市牛込區市ケ谷本村町二三
電話九段三一八二

進め社法律顧問
赤坂表町二丁目一番地
（豊川橋前）
辯護士
辨理士
法學士
久保山武雄
電話高輪五〇五四番

復痛齒痛は五分でとまる
日露事件當時の
征露丸
親露丸
一、日露親善を阻害する帝國主義的征露の熟語を國土より排滅して
二、國際的平和の親露主義に立脚せる親露丸を愛用せよ
「主治効用」
胃腸病
肺結核
定價表
金一圓（七十粒壜入）
金二圓（百五十粒壜入）
金三圓（二百五十粒壜入）
金五圓（五百粒壜入）
金七圓（八百粒壜入）
金十圓（千百粒壜入）
本舗
大阪市天王寺公園前
木本藥房
電話戎四七八

天ぷら
一人前に付
天丼　二十錢
御にぎり　十四錢
肉めし　二十錢
吸物　十錢
小鉢物　十五錢
白酒
無產者食堂
大阪市天王寺公園前

良品廉賣

松坂屋

いとう呉服店

大阪市日本橋三丁目

名古屋市中區榮町

◇大阪長堀橋◇

高島屋呉服店

◇京都烏丸……東京京橋◇

不斷の努力を捧げて

絶えず品質を精選し、價格は低廉に、趣味と實用を標準として、常に社會の趨勢に鑑み、時世に適應して改善に改善を加へつゝ、不斷の努力を續けてをります當店は、店内の諸施設、店員のサービスに於ても萬全を期し、只管顧客各位の御滿足と御愉快を以て直ちに當店の喜びと致してをります、何卒御休憩旁々御光來の程偏に御願ひ申し上ます。

地方よりの御註文は通信販賣部宛に願ひます、尚その御手引として御便利なる當店發行の「三越カレンダー」御申越次第御送附申し上ます。

大阪・高麗橋

三越呉服店

The Su-su-me Socialists Monthly.
Head office No 19 Sakurada-Kubocho Shiba Tokyo.

最新刊

辯護士 布施辰治 中西伊之助共著

社會隨筆 審くもの審かれるもの

四六判一四〇頁 美裝函入 定價一圓九十錢 送料十錢

權力の前に弱き民衆よ!! 讀め

本書は布施氏の取扱へる事件の説明を捉へ來つて中西氏が深刻な批判を加へた面白い如實の物だである。罪から見た人生。法律の缺陷が生んだ社會。ソレハ解剖したる刑事裁判の一斷面に暴露した人生の悲劇だ。深刻な人間生活の爭闘があり。性的男女三角關係あり。性慾破綻が生んだ自殺があり。お家騷動あり。殺人あり姦通あり。冤罪あり。疑獄あり。眞にコレが人間記錄の脅地獄である。事實の眞相は小説より奇であり。驚異である。

裁く者は常に裁かれる者から裁かれる。裁くものには疑獄はあるが。裁かれる者自身は常に明獄である

裁く自分を善人と思ひ、裁かれるものを惡人と思ふ評法官、警察官の職業心理が皮肉なもので、罪を縱に見ると、横に見るとの相違を社會上、法律上より人間心理を面白く解剖したる興味ある讀物である。

自然社
東京市神田區表神保町
振替東京六三五五一〇

高畠素之編輯

急進

二月號要目

◇机邊閑話……上杉愼吉
◇日本社會主義……高畠素之
◇小説時計……神永文三
◇多元的マルクス……宮崎市八
◇國家社會主義と國際社會主義……石川準十郎
◇再び戰爭と社會主義……遠藤友四郎
◇社會黨……矢部周
□閑文 尾崎士郎 □きさらぎ抄（津久井龍雄）□坐談の中から（大木雄三）□仕事部屋（江馬修）□隨意（小栗慶太郎）□守傳□信念□良心の苛責其他

大庭柯公虐殺事件批判感想
山崎今朝彌 石川三四郎 高野松太郎 木蘇穀 安成二郎 水守龜之助
小川未明 齊藤秀吉 麻生久 松延業 宮伏高信 布施辰治
遠藤無水 新居格 吉川守邦 岡陽之助 尾塲恒吾 白柳秀湖

一部三十錢 半年一圓六十錢 一年三圓十錢
大衆社
本郷千駄木五五 振替東京五四九一〇

◇社會主義 其他新古
◇農村問題 圖書雜誌
◇勞働問題 パンフレット
◇婦人問題 リーフレット
◇プロ文學 年鑑統計
◇哲學問題 出版販賣

上西書店
上西一郎
本店 神戸市湊川町二丁目十六番地
支店 神戸市湊川公園前百貨店廿一號
振替大阪七二九四〇番

プロレタリアー戰闘主義

創刊 二月十日發行

戰へ

戰へ！正義の劍もて。
進め！一歩も退歩せず。

飽くまでも戰ふ、我等の陣營を固守して。無産階級の爲めに。

是れが「戰へ」の主帯であり使命である。「進め」と東西に相兩立して闘ひの刄先鋭く敵の城塞に突進するものである。

一部十錢 一年壹圓
戰へ社
大阪市外鷺洲町海老江一〇七七

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可 ■毎月一回發行 ■定價一部十錢（送五厘）半年六十錢 一年一圓（税共） 發行所 東京市芝區櫻田久保町十九（振替東京六九八五三） 進め社本部